

産業界からみた東アジアにおける 国際競争力指標

JAPIC 版 国際競争力指標(JADEX)
～ 広域地方ブロック別 JADEX の算出 ～

平成22年3月

社団法人
日本プロジェクト産業協議会
(Japan Project-Industry Council)

はじめに

「国際競争力」は、政府、経済界の計画及び活動の基軸であり、国家戦略を考える上で重要なキーワードとなっています。しかしながら、「国際競争力」という言葉は、その定義が今ひとつ判然とせず、各界で共通に用いられる言葉でありながら、必ずしも認識は共有されていないように思います。それは、競争力を計る際の「指標（ものさし）」に内外様々なものがある中で、その目的や構造よりも結果の順位のみが注目され、語られる実態があるからではないでしょうか。

巷間で頻繁に目にするスイスの機関による「IMD 指標」は、全世界の多様な国・地域を対象に総合体力を測る性質の指標として捉えられていますが、結果の順位だけを産業界の視点からみれば、やや違和感があるとの意見も少なくありません。指標（ものさし）が違えば結果が異なるのは当然のことですが、今後、日本の政府・経済界において国家や産業の戦略を議論していく上では、目的に合致し、産業界の実感にあった適切な指標（ものさし）を構築していく必要があると認識します。

こうした認識の下、当協議会では、引き続き「世界の成長センター」となる東アジアという場に着目し、わが国がいかに東アジア各国と協調し、競争力を強化・維持発展できるかという視点から、2007年に「JAPIC版 国際競争力指標(JADEX)」を新たに作成するとともに、国土形成計画法に基づく広域地方計画において東アジアとの連携や広域地方ブロックの国際競争力の強化が課題とされる中、東アジアを競争の場とする JADEX の枠組みに基づいて広域地方ブロックの国際競争力を評価し、その強み、弱みを把握することで、広域地方ブロックの国際競争力強化のあり方を検討する基礎的資料として、「広域地方ブロック別 JADEX」を作成いたしました。

今年度は、国土形成政策の第一線でご活躍されている国土交通省の方々を交えて、JADEX 指標の拡充と精緻化を行いました。

本指標の作成にあたっては、当協議会の会員をはじめ、国土交通省、経済産業省、(株)三菱総合研究所、国際協力銀行などより、幅広い識者のご協力、ご支援を頂きました。ここに、あらためて感謝申し上げます。

平成22年3月
(社)日本プロジェクト産業協議会
国際競争・成長戦略研究会

目次

はじめに

1. JADEX の狙いと広域地方ブロック別 JADEX の算出	1
2. 広域地方ブロック別 JADEX の概要	3
3. 評価結果	5
4. 広域地方ブロック別 JADEX の評価結果	9
(参考 1) 広域地方ブロック別 JADEX の体系と個別指標の偏差値	29
(参考 2) JADEX の算出方法	33
(参考 3) 広域地方ブロック別 JADEX 指標の拡充と精緻化	34
(参考 4) データ別上位 3 ブロック・上位 5 都道府県	35
(参考 5) 国別 JADEX の概要	39

1. JADEX の狙いと広域地方ブロック別 JADEX の算出

JADEX の狙い

わが国は本格的な人口減少・高齢社会を迎えつつあり、今後、経済の停滞や縮小が予測されている。その一方で、日本を取り巻く中国や ASEAN など東アジア地域は、世界の成長のエンジンとして急速な経済成長が進み、東アジアとの連携や関係の強化がより重要になってきている。

東アジア地域内で各国・地域が連携しつつ競争するという状況が生まれつつあり、欧米諸国からも注目が高まる中で、日本の国際競争力を考える際には、東アジア市場における競争だけでなく、わが国の市場において東アジアの人・企業が提供する魅力ある財・サービスを受け入れたり、東アジア各国とのさまざまな交流の舞台をわが国に呼び込むことで発展していくという方向性も志向していく必要がある。このような考えの下で、JAPIC では東アジアを舞台としたわが国の国際競争力を多面的な切り口で評価する新たな国際競争力指標（以下、国別 JADEX）を提案した。

広域地方ブロック別 JADEX の算出

平成 21 年 8 月、国土形成計画法に基づく広域地方計画が策定された。そこでは、わが国の経済社会の活力を維持・発展させていくための東アジアとの連携や、広域地方ブロックの国際競争力の強化が課題とされている。そこで、JAPIC では東アジアを競争の場として国際競争力を評価する国別 JADEX の枠組みをベースに（国別 JADEX の概要については参考 3 参照）、広域地方ブロックの国際競争力を評価し、その強み、弱みを把握することで、広域地方ブロックの国際競争力強化のあり方を検討する基礎的資料とするため、広域地方ブロック別 JADEX の算出を試みた。

※ここでの東アジアとは、ASEAN+日・中・韓+香港・台湾+極東ロシアを指す。

広域地方計画圏域（広域地方ブロック別 JADEX におけるブロック区分）

- 東北圏： 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、新潟県（7）
 - 首都圏： 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県（8）
 - 北陸圏： 富山県、石川県、福井県（3）
 - 中部圏： 長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県（5）
 - 近畿圏： 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県（6）
 - 中国圏： 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県（5）
 - 四国圏： 徳島県、香川県、愛媛県、高知県（4）
 - 九州圏： 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県（7）
- ※北海道、沖縄県は広域地方計画の対象外であるが、広域地方ブロック別 JADEX ではこれらも含めてそれぞれ単独で一つのブロックとして取り扱うものとする。

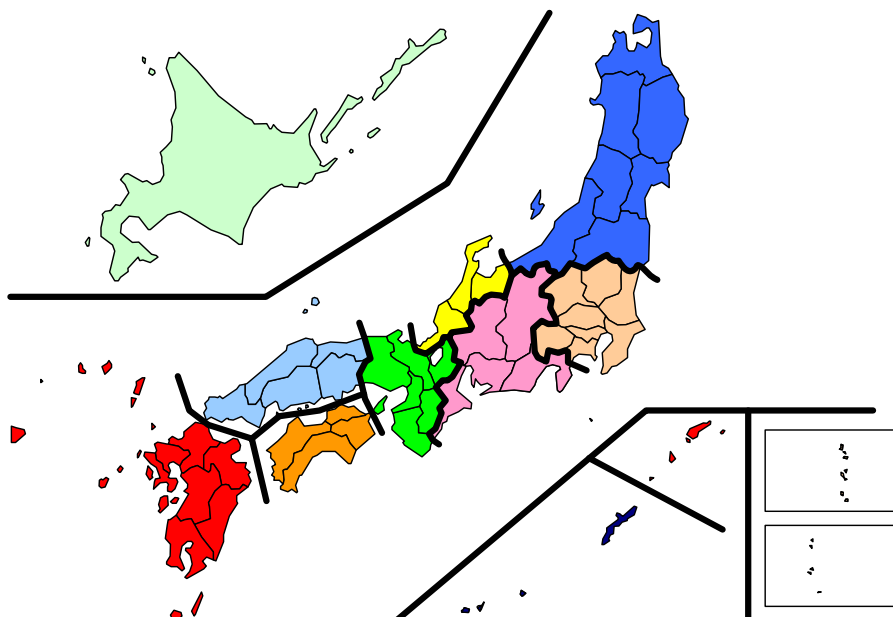




図 東アジアにおけるわが国の広域地方ブロックの地理的位置

注) 2009年版より、極東ロシア(極東連邦管轄区内)を「東アジア」として対象国に追加

2. 広域地方ブロック別 JADEX の概要

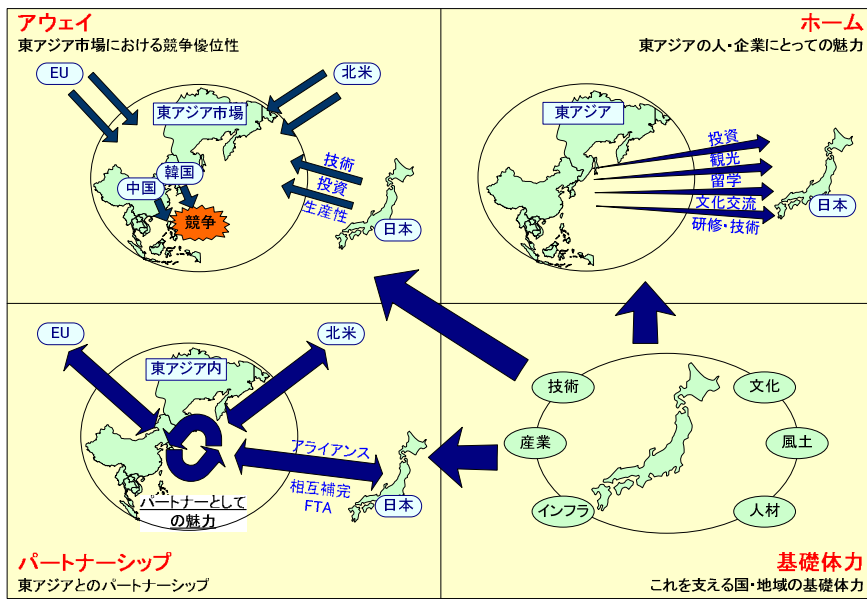
産業の市場競争の基盤だけではない多面的な“競争力”を評価

今後日本が構築すべき東アジアとの広範かつ多面的な関係を踏まえれば、そこでの競争力は、既存の国際競争力指標が重視する市場競争力とその基盤となる要素だけでなく、その国の市場や観光・文化・芸術等の魅力、パートナーとして関係を深める上での協調性も、競争の視点になるべきであろう。

そこで、国別 JADEX では、従来の国際競争力指標の考え方に近い「東アジアの人・企業にとっての魅力（ホーム）」、「これを支える国・地域の基礎体力」という2つの視点に加え、「東アジア市場における競争優位性（アウェイ）」、「東アジアとのパートナーシップ」という4つを“競争の視点”として捉え、それぞれの視点に基づく評価項目として中項目、小項目に細分化し、国際競争力指標の体系を構築した。

わが国の経済社会の活力を維持・発展させていくために広域地方ブロックが東アジアとの連携を図っていく上での競争の視点は、二国間の関係を表す評価項目等を除いて、国のものとはほぼ同様のものになるだろう。そこで、広域地方ブロック別 JADEX では、上記の競争の視点に基づいて構築された国別 JADEX における国際競争力指標の体系を踏襲した。

＜国別 JADEX における東アジアにおける競争：4つの視点＞



日本が戦略的に重視すべき東アジアを念頭においた指標

広域地方ブロック別 JADEX では、小項目を適切に表現する 93 のデータを採用している。このうち、25 のデータは東アジアという場における評価や東アジアとの関係性を評価するものである。これらのデータには、既存の統計データだけでなく、東アジア諸国との貿易結合度のよう、各項目の意味合いを的確に表現し得るよう独自に集計・加工しているオリジナルデータもある。

なお、国別 JADEX のデータの中には、広域地方ブロック単位では収集が困難なものや、意味合いが異なってくるものなどがあるため、適宜、加除修正を図っており、必ずしも整合的ではない。

＜4つの視点に基づく評価体系＞

視点	中項目*1	小項目	データ
東アジア市場における競争優位性 (アウェイ)	東アジアとの貿易実績	56項目 (国別 JADEX を踏襲)	93 データ うち 25 データは東アジアとの関係を表わす (国別 JADEX では 104 データ、うち東アジア関係は 27 データ)
	企業活動の効率性・生産性		
	産業に関わる技術水準		
	市場の成熟度		
	域内人材の活力		
	知的財産の蓄積		
	ブランド力		
東アジアの人・企業にとっての魅力 (ホーム)	「在住」の魅力 (生活)		
	「訪問」の魅力 (観光)		
	「投資・提携」の魅力 (経済)		
	東アジアからの人・企業の訪問等の実績		
	「交流」の魅力 (学術・文化・芸術)		
東アジアにおけるパートナーシップ力 (パートナーシップ)	移動・輸送バリア		
	東アジアとの交流の緊密度		
	二国間優遇措置*2		
	国際協力・支援等		
	規格基準の共通性*2		
	民族・文化の共通性		
東アジアにおける国際競争力を支える基礎体力 (基礎体力)	教育		
	社会経済の規模		
	エネルギー・食糧・鉱業資源		
	財政状況		
	環境負荷		
	インフラ		
	社会の安定性・信頼性		

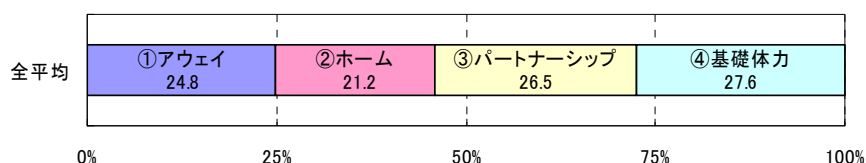
*1 これらの中項目の下に小項目を設定し、小項目を適切に表現するデータを各々に対応させている(詳細は参考1参照)。

*2 地域ブロック間で差がみられない評価項目については、評価指標から除いてポイントを算出している。

現役のビジネスパーソンへの調査に基づく“現場感覚”に合った評価

国別 JADEX では、4つの視点のどれを重視すべきか、あるいは4つの視点それぞれにおいて重要な評価項目は何かという重みづけ (ウェイト) を、アンケート調査を通じて産業界の生の声として東アジアの現場で活躍されているビジネスパーソンに評価していただいた。国別 JADEX は、データの偏差値を、このビジネスパーソンの重みを反映させつつ集計して総合評価値を算出している。広域地方ブロック別 JADEX においても、国別 JADEX のウェイトを活用して評価を行った。

＜4つの視点に関する重要度はほぼ均衡＞



- ①アウェイ：東アジア市場での競争優位性
- ②ホーム：東アジアの人・企業にとっての国の魅力
- ③パートナーシップ：東アジア各国とのパートナーシップ
- ④基礎体力：国際競争力を支える基礎体力

＜アンケート調査の対象者＞

対象地域	対象	配布	回収
日本	日本企業(東証1部・2部上場)経営者	約 2,300 社	304
東アジア	現地法人等 経営者	約 500 社	101
合計		約 2,800 社	405

3. 評価結果

首都圏が突出して1位

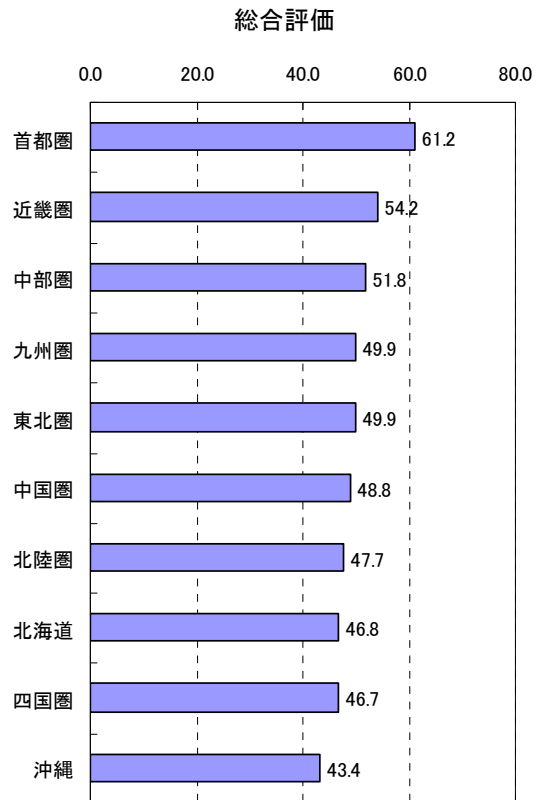
- ・ 2008年版に引き続き、首都圏が1位であり、2位、3位の近畿圏、中部圏を大きく引き離している。
- ・ 首都圏は4つの視点全てで1位であり、基礎体力以外では60ポイントを大きく上回る高評価を得ている。

近畿圏が2位、中部圏が3位で50ポイント超

- ・ 2008年版に引き続き、近畿圏が2位、中部圏が3位となった。
- ・ 対象とする10地域のうち、総合評価で平均の50ポイントを上回る地域は3大都市圏のみであり、引き続き大都市圏に競争力が集中する結果となった。

九州圏・東北圏が健闘

- ・ 九州圏・東北圏は双方が49.9ポイントと中部圏に次いで4位、5位にランクインしている。
- ・ 下位5ブロックは、沖縄を除いて、概ね2ポイントの幅の中でひしめきあう僅差となっている。



視点別評価結果

競争優位性

- ・ 首都圏が突出した高評価を得ており、次いで近畿圏、中部圏が僅差で2位、3位となっている。
- ・ 首都圏の突出した高評価は、「ブロックのブランド力」において首都圏が2位の近畿圏に22.6ポイント差をつけていることが大きく寄与している。

魅力

- ・ 首都圏が突出した高評価を得ており、次いで近畿圏、中部圏が2位、3位となっている。
- ・ 首都圏、近畿圏は、5つの中項目のうち「投資・提携」の魅力、「東アジアからの人・企業の訪問等の実績」、「交流」の魅力の3項目で1位、2位となっている。首都圏の突出した高評価は、これら3項目において、首都圏が2位の近畿圏に13.6~17.4ポイント差をつけていることが大きく寄与している。

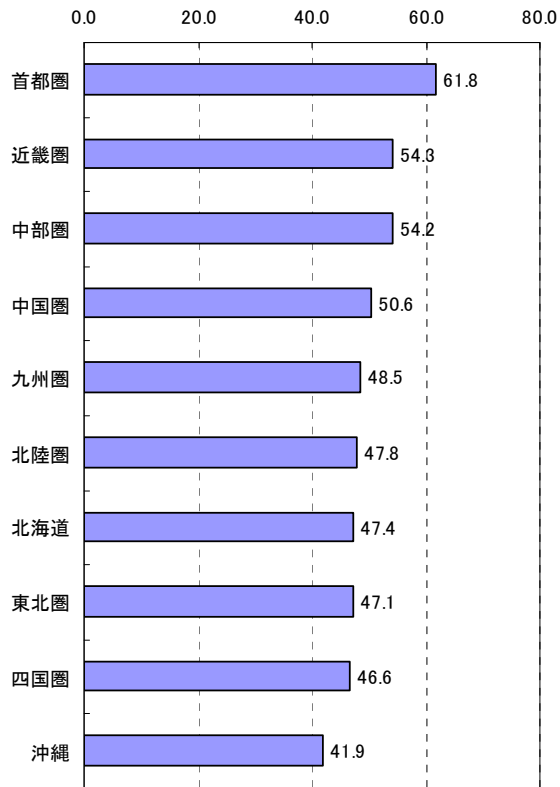
パートナーシップ

- ・ 首都圏、近畿圏が1位、2位であるが、「民族・文化の共通性」で2位、「移動・輸送バリア」で4位の九州圏が、中部圏を凌いで3位にランクインしている。

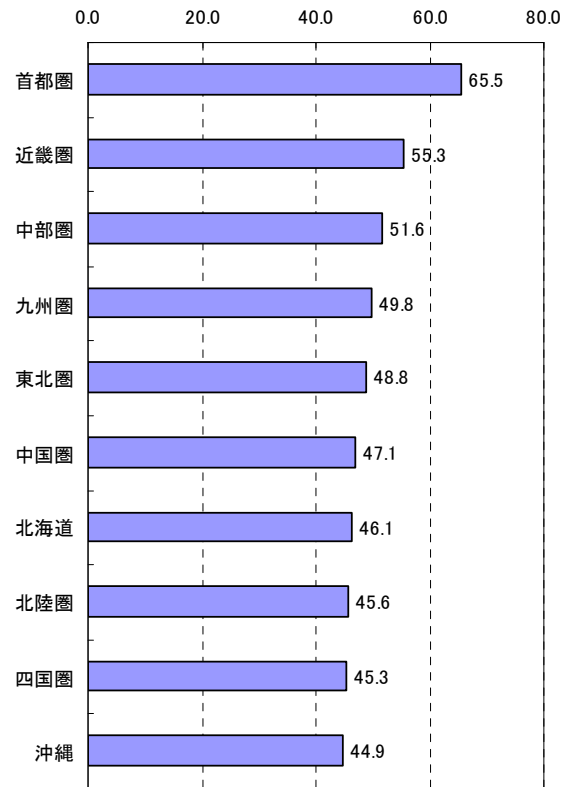
基礎体力

- ・ 首都圏が1位であるが、「エネルギー・食糧・鉱業資源」「環境負荷」で1位の東北圏が、中部圏、近畿圏をおさえて2位にランクインしている。

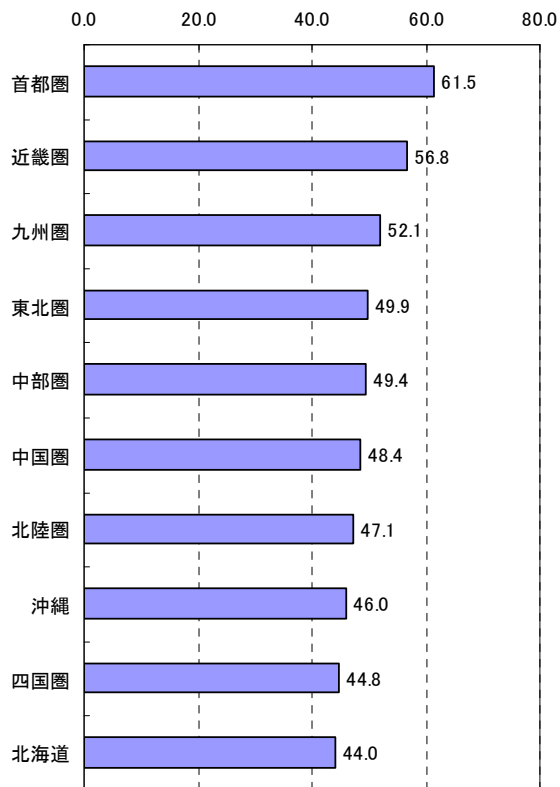
競争優位性



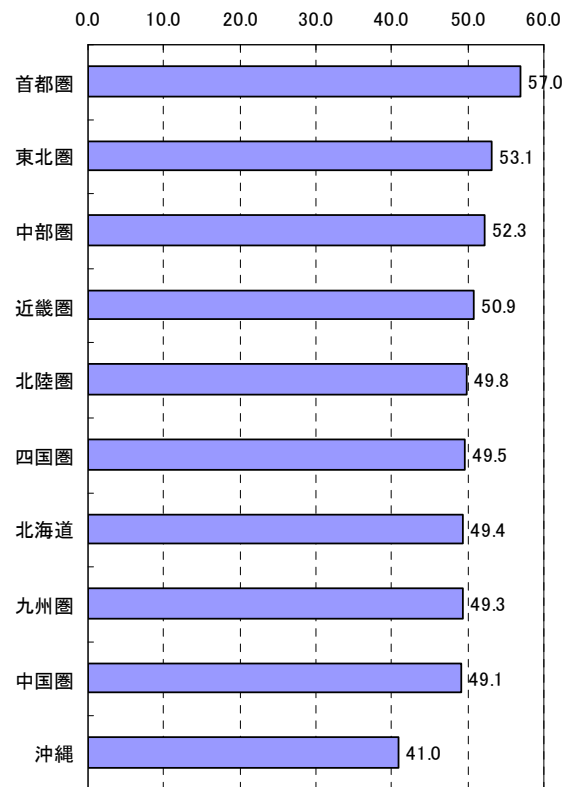
魅力



パートナーシップ



基礎体力



中 項 目 別 順 位 表

<競争優位性>

順位	東アジアとの貿易実績		産業に関わる技術水準		市場の成熟度		企業活動の効率性・生産性		域内人材の活力		知的財産の蓄積		ブランド力		競争優位性(アウェイ)総合順位	
	ウェイト	9.8	ウェイト	21.4	ウェイト	14.6	ウェイト	13.6	ウェイト	17.0	ウェイト	11.3	ウェイト	12.3	ウェイト	24.7
	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント
1	中国圏	59.6	首都圏	63.7	首都圏	64.2	中部圏	55.2	首都圏	60.0	首都圏	62.4	首都圏	76.9	首都圏	61.8
2	九州圏	56.8	中部圏	56.9	中部圏	60.4	中国圏	51.4	近畿圏	57.3	中国圏	54.7	近畿圏	54.3	近畿圏	54.3
3	首都圏	51.9	近畿圏	54.1	近畿圏	56.4	首都圏	51.4	北海道	51.1	近畿圏	54.5	中部圏	51.4	中部圏	54.2
4	近畿圏	51.2	北陸圏	50.4	北海道	56.1	北陸圏	50.8	中国圏	50.9	中部圏	53.8	中国圏	46.2	中国圏	50.6
5	中部圏	50.0	東北圏	48.1	中国圏	51.1	近畿圏	50.6	九州圏	50.6	九州圏	51.9	九州圏	45.4	九州圏	48.5
6	北海道	47.0	九州圏	46.3	北陸圏	48.4	沖縄	49.8	中部圏	49.3	東北圏	51.3	東北圏	45.3	北陸圏	47.8
7	四国圏	46.6	沖縄	45.8	四国圏	45.8	九州圏	49.6	北陸圏	48.2	四国圏	48.8	北陸圏	45.3	北海道	47.4
8	北陸圏	46.1	中国圏	45.6	東北圏	45.5	四国圏	49.5	四国圏	47.5	北海道	43.6	北海道	45.2	東北圏	47.1
9	沖縄	45.9	北海道	44.9	九州圏	42.4	東北圏	49.2	東北圏	45.4	北陸圏	42.4	四国圏	45.2	四国圏	46.6
10	東北圏	44.9	四国圏	44.3	沖縄	29.7	北海道	42.6	沖縄	39.9	沖縄	36.7	沖縄	45.0	沖縄	41.9

<魅力>

順位	「在住」の魅力(生活)		「訪問」の魅力(観光)		「投資・提携」の魅力(経済)		東アジアからの人・企業の訪問等の実績		「交流」の魅力(学術・文化・芸術)		魅力(ホーム)総合順位	
	ウェイト	17.2	ウェイト	13.8	ウェイト	35.1	ウェイト	13.8	ウェイト	17.3	ウェイト	21.2
	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント
1	沖縄	59.8	東北圏	55.9	首都圏	73.2	首都圏	73.5	首都圏	75.2	首都圏	65.5
2	四国圏	52.6	九州圏	53.7	近畿圏	57.7	近畿圏	59.9	近畿圏	57.8	近畿圏	55.3
3	九州圏	51.1	近畿圏	52.7	中部圏	56.7	中部圏	50.3	九州圏	49.2	中部圏	51.6
4	北陸圏	51.0	北海道	52.3	東北圏	48.5	九州圏	50.1	中部圏	49.2	九州圏	49.8
5	北海道	50.3	中国圏	51.8	九州圏	47.7	東北圏	45.8	中国圏	47.3	東北圏	48.8
6	東北圏	49.3	北陸圏	50.1	中国圏	46.8	北海道	45.2	東北圏	46.1	中国圏	47.1
7	中部圏	48.3	首都圏	47.9	北海道	43.3	中国圏	45.0	四国圏	46.1	北海道	46.1
8	首都圏	46.5	中部圏	47.4	北陸圏	42.7	北陸圏	43.8	北陸圏	44.0	北陸圏	45.6
9	中国圏	45.6	四国圏	45.5	四国圏	42.7	四国圏	43.3	北海道	43.7	四国圏	45.3
10	近畿圏	45.4	沖縄	42.7	沖縄	40.7	沖縄	43.0	沖縄	42.1	沖縄	44.9

中 項 目 別 順 位 表

<パートナーシップ>

順位	移動・輸送バリア		東アジアとの交流の緊密度		二国間優遇措置		国際協力・支援		規格基準の共通性		民族・文化の共通性		パートナーシップ総合順位	
	ウェイト	21.4	ウェイト	22.0	ウェイト	18.1	ウェイト	13.7	ウェイト	13.7	ウェイト	11.1	ウェイト	26.5
	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント
1	首都圏	62.0	近畿圏	55.9	-	-	首都圏	71.1	-	-	首都圏	68.4	首都圏	61.5
2	近畿圏	59.5	東北圏	55.2	-	-	中部圏	57.7	-	-	九州圏	62.1	近畿圏	56.8
3	沖縄	52.1	北陸圏	54.1	-	-	近畿圏	54.5	-	-	近畿圏	55.9	九州圏	52.1
4	九州圏	51.1	首都圏	51.5	-	-	東北圏	53.7	-	-	中部圏	50.9	東北圏	49.9
5	中部圏	49.6	中国圏	50.6	-	-	九州圏	50.5	-	-	中国圏	50.9	中部圏	49.4
6	中国圏	48.4	九州圏	49.1	-	-	四国圏	44.0	-	-	東北圏	48.4	中国圏	48.4
7	四国圏	47.9	沖縄	48.2	-	-	北陸圏	43.6	-	-	北海道	45.9	北陸圏	47.1
8	北陸圏	45.4	北海道	46.9	-	-	中国圏	42.8	-	-	北陸圏	40.9	沖縄	46.0
9	東北圏	42.9	四国圏	45.1	-	-	北海道	42.2	-	-	四国圏	39.6	四国圏	44.8
10	北海道	41.2	中部圏	43.4	-	-	沖縄	40.1	-	-	沖縄	37.1	北海道	44.0

<基礎体力>

順位	教育		社会経済の規模		エネルギー・食糧・鉱業資源		財政状況		環境負荷		インフラ		社会の安定性・信頼性		基礎体力総合順位	
	ウェイト	21.3	ウェイト	12.7	ウェイト	10.0	ウェイト	9.4	ウェイト	10.5	ウェイト	18.3	ウェイト	17.8	ウェイト	27.6
	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント	ブロック	ポイント
1	首都圏	62.9	首都圏	66.2	東北圏	63.8	四国圏	68.8	東北圏	58.9	首都圏	64.1	北海道	58.8	首都圏	57.0
2	近畿圏	54.9	中部圏	55.7	北海道	59.1	首都圏	59.6	九州圏	58.3	近畿圏	53.4	北陸圏	53.9	東北圏	53.1
3	中部圏	54.7	近畿圏	53.0	九州圏	50.7	北陸圏	57.9	中国圏	54.0	東北圏	50.8	中国圏	53.0	中部圏	52.3
4	北陸圏	51.8	東北圏	52.1	中部圏	49.8	沖縄	52.5	近畿圏	53.6	中部圏	50.3	四国圏	52.7	近畿圏	50.9
5	東北圏	51.6	北海道	50.2	四国圏	47.4	九州圏	50.3	中部圏	51.3	北海道	49.6	中部圏	52.2	北陸圏	49.8
6	中国圏	48.5	中国圏	48.4	北陸圏	46.8	中部圏	50.2	北海道	49.7	九州圏	49.3	東北圏	49.9	四国圏	49.5
7	九州圏	48.0	九州圏	48.2	沖縄	46.2	東北圏	50.2	四国圏	49.3	中国圏	47.9	首都圏	48.0	北海道	49.4
8	四国圏	47.6	北陸圏	45.0	近畿圏	46.1	近畿圏	47.4	北陸圏	45.8	北陸圏	46.7	九州圏	45.2	九州圏	49.3
9	北海道	43.9	四国圏	43.3	首都圏	45.8	中国圏	45.6	首都圏	45.4	四国圏	44.5	近畿圏	44.8	中国圏	49.1
10	沖縄	36.2	沖縄	37.9	中国圏	44.3	北海道	32.1	沖縄	33.7	沖縄	43.4	沖縄	41.6	沖縄	41.0

4. 広域地方ブロック別 JADEX の評価結果

北海道 —基礎体力が多少強いものの全体的に低い水準—

競争優位性

- ・ 「市場の成熟度」、「域内人材の活力」で平均(50 ポイント)を上回るポイントを得ているのに対し、他の中項目は全て平均を下回り、10 ブロック中 7 位。
- ・ 「市場の成熟度」が 56.1 ポイントとポイントが高くなっているのは、一人あたり家計消費支出が、三大都市圏に次いで 4 位にランクインしているため。
- ・ 「域内人材の活力」は、地元高校の卒業者のうち地元大学への進学率が 70.4 ポイントと高いものの、他ブロックからの進学者の比率が 34.7 ポイントと低いため、全体で 51.1 ポイントにとどまっている。
- ・ 「企業活動の効率性・生産性」は、10 ブロックのうち最下位。これは、資本係数が 30.3 ポイントとかなり低いことが大きな要因。

魅力

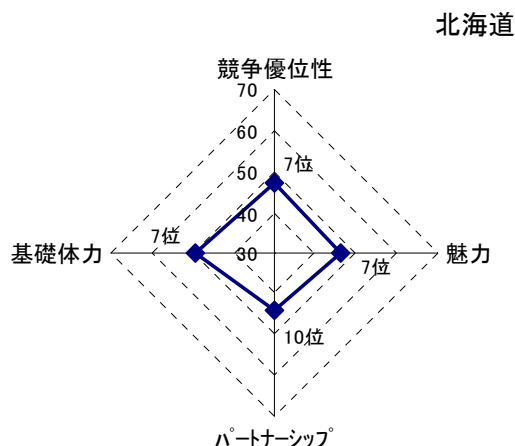
- ・ 「「在住」の魅力」、「訪問」の魅力」で平均(50ポイント)以上を得ているものの、他の項目で約 45 ポイント以下となり、10 ブロック中 7 位。
- ・ 「「訪問」の魅力」は、訪日外国人による観光地推薦率と東アジアからの訪問観光客数の増加率(リピート率)の高評価が大きく牽引し、10 ブロック中 4 位。一方、外国人案内所の数が少ないなどサービス面での評価は 39.5 ポイントと低い。恵まれた観光資源が強みとなっているが、サービス面が弱みとなっている。

パートナーシップ

- ・ 中項目はいずれも平均(50ポイント)を下回り、「パートナーシップ」の順位は最下位。特に、地理的に東アジアから相対的に遠方に位置していることなどから、移動・輸送バリアは 41.2 ポイントと 10 ブロック中最下位。
- ・ 「移動・輸送バリア」の首都間距離合計、「東アジアとの交流の緊密度」の貿易結合度(輸入)が他ブロックに比べて突出して低くなっていることが「パートナーシップ」全体としての評価を下げる大きな要因。

基礎体力

- ・ 「エネルギー・食料・鉱業資源」が 2 位(59.1 ポイント)、「社会の安定性・信頼性」が 1 位(58.8 ポイント)と評価は高いが、最下位の「財政状況」(32.1 ポイント)が影響し、「基礎体力」全体では 10 ブロック中 7 位。
- ・ 「社会の安定性・信頼性」についてはインフレ率と自殺率の低さが、「エネルギー・食糧・鉱業資源」については水資源の量と食料品の自給率の高さがそれぞれ高い評価に大きく貢献。



視点	ポイント(順位)
総合評価	46.8(8位)
競争優位性	47.4(7位)
魅力	46.1(7位)
パートナーシップ	44.0(10位)
基礎体力	49.4(7位)

視点	中項目	ポイント(順位)	マップ
競争優位性 (アウェイ)	東アジアとの貿易実績	47.0(6位)	<p>重要度(産業界の考えるウェイト) 0 10 20 30 40</p> <p>高 80</p> <p>競争優位性</p> <p>市場の成熟度</p> <p>国内人材の活力</p> <p>東アジアとの貿易実績</p> <p>ブランド力</p> <p>産業に関する技術</p> <p>知的財産の蓄積</p> <p>企業活動の効率性・生産性</p> <p>低 20</p>
	産業に関わる技術水準	44.9(9位)	
	市場の成熟度	56.1(4位)	
	企業活動の効率性・生産性	42.6(10位)	
	域内人材の活力	51.1(3位)	
	知的財産の蓄積	43.6(8位)	
	ブランド力	45.2(8位)	
魅力 (ホーム)	「在住」の魅力(生活)	50.3(5位)	<p>重要度(産業界の考えるウェイト) 0 10 20 30 40</p> <p>高 80</p> <p>魅力</p> <p>「訪問」の魅力(観光)</p> <p>「在住」の魅力(生活)</p> <p>東アジアからの人・企業の訪問等の実績</p> <p>「交流」の魅力(学術・文化・芸術)</p> <p>「投資・提携」の魅力(経済)</p> <p>低 20</p>
	「訪問」の魅力(観光)	52.3(4位)	
	「投資・提携」の魅力(経済)	43.3(7位)	
	東アジアからの人・企業の訪問等の実績	45.2(6位)	
	「交流」の魅力(学術・文化・芸術)	43.7(9位)	
パートナーシップ	移動・輸送バリア	41.2(10位)	<p>重要度(産業界の考えるウェイト) 0 10 20 30 40</p> <p>高 80</p> <p>パートナーシップ</p> <p>民族・文化の共通性</p> <p>東アジアとの交流の緊密度</p> <p>国際協力・支援</p> <p>移動・輸送バリア</p> <p>低 20</p>
	東アジアとの交流の緊密度	46.9(8位)	
	二国間優遇措置	—	
	国際協力・支援	42.2(9位)	
	規格基準の共通性	—	
	民族・文化の共通性	45.9(7位)	
基礎体力	教育	43.9(9位)	<p>重要度(産業界の考えるウェイト) 0 10 20 30 40</p> <p>高 80</p> <p>基礎体力</p> <p>エネルギー・食糧・鉱業資源</p> <p>社会経済の規模</p> <p>社会の安定性・信頼性</p> <p>環境負荷</p> <p>インフラ</p> <p>教育</p> <p>財政状況</p> <p>低 20</p>
	社会経済の規模	50.2(5位)	
	エネルギー・食料・鉱業資源	59.1(2位)	
	財政状況	32.1(10位)	
	環境負荷	49.7(6位)	
	インフラ	49.6(5位)	
	社会の安定性・信頼性	58.8(1位)	

東北圏 — 魅力、基礎体力に多少の強み —

競争優位性

- ・ 「競争優位性」は10ブロック中8位。「知的財産の蓄積」を除き、全ての項目で平均(50ポイント)を下回り、個別データでみても東北圏の「競争優位性」に突出した強みはない。
- ・ 中項目の「東アジアとの貿易実績」(最下位、44.9ポイント)、「ブランド力」(6位、45.3ポイント)、「域内人材の活力」(9位、45.4ポイント)、「市場の成熟度」(8位、45.5ポイント)の評価が低く、東北圏の「競争優位性」を大きく低下させている。
- ・ 「知的財産の蓄積」において、研究所の数が多く、「R&D投資」(小項目)に関する評価が比較的高いのに対し、「域内人材の活力」において、地元大学への進学率が低い点が特徴的。

魅力

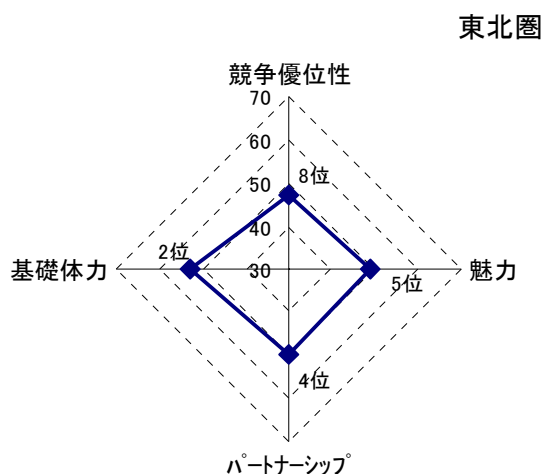
- ・ 「魅力」は10ブロック中5位となっているが、「訪問」の魅力が1位(55.9ポイント)と東北圏の「魅力」を高めている。これは、有数の温泉地を抱えており、また外国人向け案内所の数も多いなどサービス面の充実が大きく貢献している。

パートナーシップ

- ・ 「移動・輸送バリア」で9位(42.9ポイント)と低評価であるものの、「東アジアとの交流の緊密度」において2位(55.2ポイント)と高評価を得ているため、「パートナーシップ」全体では4位(49.9ポイント)であり、中部圏を凌いでいる。
- ・ 「移動・輸送バリア」は、地理的に東アジアから相対的に遠方に位置することから首都間距離合計が39.1ポイント(9位)となるなど、最下位の北海道とともに他のブロックに比べて突出して低くなっている。
- ・ 「東アジアとの交流の緊密度」は、東アジアとの各種貿易緊密度の高評価が大きく寄与し、2位(55.2ポイント)。

基礎体力

- ・ 中項目で10ブロック中1位になっている「エネルギー・食料・鉱業資源」(63.8ポイント)と「環境負荷」(58.9ポイント)が大きく牽引し、東北圏の「基礎体力」は首都圏に次いで2位。
- ・ 「エネルギー・食糧・鉱業資源」は、豊富な天然資源(鉱山、天然ガス、水資源)を活かして、東北の「基礎体力」を支えている。
- ・ 「環境負荷」では、森林の占有面積、自然エネルギーの発電量が大きく牽引し、1位となっているものの、GRPあたりのCO2排出量は47.6と平均を下回っており、エネルギー消費の効率化を図るなどの改善の余地がある。



視点	ポイント(順位)
総合評価	49.9(5位)
競争優位性	47.1(8位)
魅力	48.8(5位)
パートナーシップ	49.9(4位)
基礎体力	53.1(2位)

視点	中項目	ポイント(順位)	マップ
競争優位性 (アウェイ)	東アジアとの貿易実績	44.9(10位)	<p>重要度(産業界の考えるウェイト) 0 10 20 30 40</p> <p>高 80</p> <p>低 20</p> <p>競争優位性</p> <p>企業活動の効率性・生産性</p> <p>知的財産の蓄積</p> <p>産業に関わる技術</p> <p>東アジアとの貿易実績</p> <p>国内人材の活力</p> <p>ブランド力</p> <p>市場の成熟度</p>
	産業に関わる技術水準	48.1(5位)	
	市場の成熟度	45.5(8位)	
	企業活動の効率性・生産性	49.2(9位)	
	域内人材の活力	45.4(9位)	
	知的財産の蓄積	51.3(6位)	
	ブランド力	45.3(6位)	
魅力 (ホーム)	「在住」の魅力(生活)	49.3(6位)	<p>重要度(産業界の考えるウェイト) 0 10 20 30 40</p> <p>高 80</p> <p>低 20</p> <p>魅力</p> <p>「訪問」の魅力(観光)</p> <p>東アジアからの人・企業の訪問等の実績</p> <p>「交流」の魅力(学術・文化・芸術)</p> <p>「投資・提携」の魅力(経済)</p> <p>「在住」の魅力(生活)</p>
	「訪問」の魅力(観光)	55.9(1位)	
	「投資・提携」の魅力(経済)	48.5(4位)	
	東アジアからの人・企業の訪問等の実績	45.8(5位)	
	「交流」の魅力(学術・文化・芸術)	46.4(6位)	
パートナーシップ	移動・輸送バリア	42.9(9位)	<p>重要度(産業界の考えるウェイト) 0 10 20 30 40</p> <p>高 80</p> <p>低 20</p> <p>パートナーシップ</p> <p>国際協力・支援</p> <p>東アジアとの交流の緊密度</p> <p>民族・文化の共通性</p> <p>移動・輸送バリア</p>
	東アジアとの交流の緊密度	55.2(2位)	
	二国間優遇措置	—	
	国際協力・支援	53.7(4位)	
	規格基準の共通性	—	
	民族・文化の共通性	48.4(6位)	
基礎体力	教育	51.6(5位)	<p>重要度(産業界の考えるウェイト) 0 10 20 30 40</p> <p>高 80</p> <p>低 20</p> <p>基礎体力</p> <p>エネルギー・食糧・鉱業資源</p> <p>環境負荷</p> <p>社会経済の規模</p> <p>インフラ</p> <p>教育</p> <p>財政状況</p> <p>社会の安定性・信頼性</p>
	社会経済の規模	52.1(4位)	
	エネルギー・食料・鉱業資源	63.8(1位)	
	財政状況	50.2(7位)	
	環境負荷	58.9(1位)	
	インフラ	50.8(3位)	
	社会の安定性・信頼性	49.9(6位)	

首都圏 — 圧倒的な競争優位性と魅力の強み —

競争優位性

- ・ 7項目の中項目全てで平均(50ポイント)以上となっており、さらに、「東アジアとの貿易実績」、「企業活動の効率性・生産性の項目」以外では60ポイントを上回っており、圧倒的に高い競争優位性を誇っている。
- ・ 一方、貿易収支(一次産業)、資本係数、人件費の3つのデータのポイントは40ポイントを下回っている。

魅力

- ・ 「魅力」全体の順位は1位。「投資・提携」の魅力(1位、73.2ポイント)、「東アジアからの人・企業の訪問等の実績」(1位、73.5ポイント)、「交流」の魅力(学術・文化・芸術)(1位、75.2ポイント)は70ポイントを超える高評価を得ているのに対し、「在住」の魅力(8位、46.5ポイント)、「訪問」の魅力(7位、47.9ポイント)は低評価になっている。
- ・ 首都圏の物価・家賃は全ブロックで最も高く、「在住」の魅力」を大きく低減させている。
- ・ 近年はショッピング等の目的で首都圏を訪れるアジアを中心とする外国人旅行者は多いものの、温泉等のいわゆる観光資源の数や、国際観光旅館の数に関する評価が相対的に低いため、「訪問」の魅力」は低評価となっている。

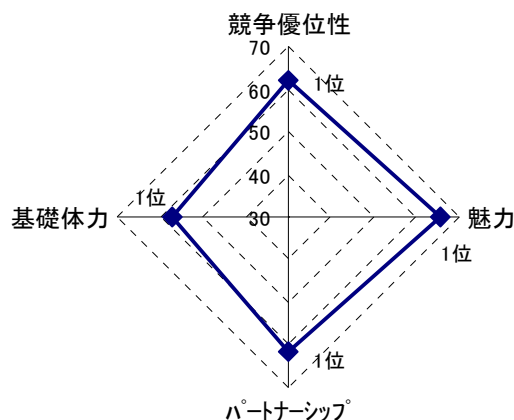
パートナーシップ

- ・ 全ての中項目で平均(50ポイント)を上回っており、「パートナーシップ」の順位は1位。
- ・ 「移動・輸送バリア」は、地理的に東アジアから相対的に遠方にあるにもかかわらず、東アジア諸国への航空旅客便数が75.0ポイント、航空貨物便数が68.1ポイントと高評価を得たことにより、全体では62.0ポイントと群を抜いて1位。

基礎体力

- ・ 「エネルギー・食糧・鉱業資源」、「環境負荷」、「社会の安定性・信頼性」では平均(50ポイント)を下回っているが、その他の項目で約60ポイント以上の高評価を得ているため、「基礎体力」全体では1位。ただし、「基礎体力」は4つの視点の中で唯一60ポイントを下回っている。
- ・ 巨大都市圏であるがゆえに「インフラ」、「教育」、「社会経済の規模」では圧倒的な強さを持っているものの、「環境負荷」や「エネルギー・食糧・鉱業資源」については評価が低くなっている。

首都圏



視点	ポイント(順位)
総合評価	61.2(1位)
競争優位性	61.8(1位)
魅力	65.5(1位)
パートナーシップ	61.5(1位)
基礎体力	57.0(1位)

視点	中項目	ポイント(順位)	マップ
競争優位性 (アウェイ)	東アジアとの貿易実績	51.9(3位)	<p>重要度(産業界の考えるウェイト) 0 10 20 30 40</p> <p>高 80</p> <p>競争優位性</p> <p>ブランド力</p> <p>市場の成熟度</p> <p>知的財産の蓄積</p> <p>東アジアとの貿易実績</p> <p>国内人材の活力</p> <p>企業活動の効率性・生産性</p> <p>産業に関わる技術</p> <p>50</p> <p>低 20</p>
	産業に関わる技術水準	63.7(1位)	
	市場の成熟度	64.2(1位)	
	企業活動の効率性・生産性	51.4(3位)	
	域内人材の活力	60.0(1位)	
	知的財産の蓄積	62.4(1位)	
	ブランド力	76.9(1位)	
魅力 (ホーム)	「在住」の魅力(生活)	46.5(8位)	<p>重要度(産業界の考えるウェイト) 0 10 20 30 40</p> <p>高 80</p> <p>魅力</p> <p>東アジアからの人・企業の訪問等の実績</p> <p>「交流」の魅力(学術・文化・芸術)</p> <p>「投資・提携」の魅力(経済)</p> <p>「訪問」の魅力(観光)</p> <p>「在住」の魅力(生活)</p> <p>50</p> <p>低 20</p>
	「訪問」の魅力(観光)	47.9(7位)	
	「投資・提携」の魅力(経済)	73.2(1位)	
	東アジアからの人・企業の訪問等の実績	73.5(1位)	
	「交流」の魅力(学術・文化・芸術)	75.2(1位)	
パートナーシップ	移動・輸送バリア	62.0(1位)	<p>重要度(産業界の考えるウェイト) 0 10 20 30 40</p> <p>高 80</p> <p>パートナーシップ</p> <p>民族・文化の共通性</p> <p>国際協力・支援</p> <p>移動・輸送バリア</p> <p>東アジアとの交流の緊密度</p> <p>50</p> <p>低 20</p>
	東アジアとの交流の緊密度	51.5(4位)	
	二国間優遇措置	—	
	国際協力・支援	71.1(1位)	
	規格基準の共通性	—	
	民族・文化の共通性	68.4(1位)	
基礎体力	教育	62.9(1位)	<p>重要度(産業界の考えるウェイト) 0 10 20 30 40</p> <p>高 80</p> <p>基礎体力</p> <p>社会経済の規模</p> <p>財政状況</p> <p>インフラ</p> <p>教育</p> <p>エネルギー・食糧・鉱業資源</p> <p>社会の安定性・信頼性</p> <p>環境負荷</p> <p>50</p> <p>低 20</p>
	社会経済の規模	66.2(1位)	
	エネルギー・食糧・鉱業資源	45.8(9位)	
	財政状況	59.6(2位)	
	環境負荷	45.4(9位)	
	インフラ	64.1(1位)	
	社会の安定性・信頼性	48.0(7位)	

競争優位性

- ・ 特段の強みがなく、6位。「東アジアの貿易実績」が8位(46.1ポイント)、「域内人材の活力」は7位(48.2ポイント)と低評価。個別データでは、東アジアへの当該地域からの輸出量(一次産業)(39.9ポイント)、地元大学への進学者率(38.5ポイント)の評価が低い。
- ・ 「知的財産の蓄積」は、各評価指標が全て40ポイント程度となり、42.4ポイントと10ブロック中9位と低評価。
- ・ なお、工作機械の貿易収支は64.4ポイントと高評価を得ている。

魅力

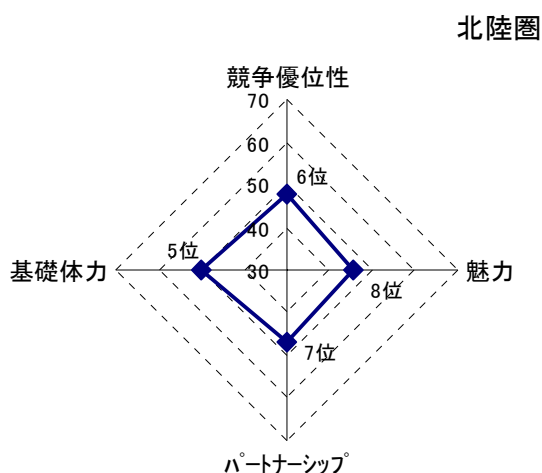
- ・ 「「在住」の魅力」、「訪問」の魅力」が平均(50ポイント)を上回っている。「在住」の魅力については、犯罪率(60.9ポイント)が僅差で東北圏に次ぐ2位となっており、治安の良さが寄与している。「訪問」の魅力については、外国人観光客あたりの国際観光旅館数(70.0)が大きく寄与している。
- ・ 他の中項目については突出して低評価のデータはないものの、いずれも平均(50ポイント)を下回っている。

パートナーシップ

- ・ 「パートナーシップ」全体の評価は10ブロック中7位となっているが、「東アジアとの交流の緊密度」が3位(54.1ポイント)。中国、韓国、極東ロシアなどの環日本海諸国に隣接している地理的優位性と産業技術力の高さが寄与している。

基礎体力

- ・ 「財政状況」(3位、57.9ポイント)、「社会の安定性・信頼性」(2位、53.9ポイント)の評価が比較的高く、「基礎体力」全体では10ブロック中5位。
- ・ 「教育」については、小項目の「基礎学力」のデータである読解能力、数学的能力が10ブロック中1位となっており、10ブロック中4位(51.8ポイント)と比較的高い評価を得ている。
- ・ 一方、「インフラ」は8位(46.7ポイント)と評価が低く、特に空港・道路に関する評価が低いことが特徴的である。



視点	ポイント(順位)
総合評価	47.2(7位)
競争優位性	47.8(6位)
魅力	45.6(8位)
パートナーシップ	47.1(7位)
基礎体力	49.8(5位)

視点	中項目	ポイント(順位)	マップ
競争優位性 (アウェイ)	東アジアとの貿易実績	46.1(8位)	<p>このマップは、競争優位性（アウェイ）の観点から、東アジアとの貿易実績、産業に関する技術水準、市場の成熟度、企業活動の効率性・生産性、域内人材の活力、知的財産の蓄積、ブランドカを評価しています。重要度は産業界の考えるウェイト（0-40）で、ブロックの評価（ポイント）は20-80で示されています。</p>
	産業に関する技術水準	50.4(4位)	
	市場の成熟度	48.4(6位)	
	企業活動の効率性・生産性	50.8(4位)	
	域内人材の活力	48.2(7位)	
	知的財産の蓄積	42.4(9位)	
	ブランドカ	45.3(7位)	
魅力 (ホーム)	「在住」の魅力(生活)	51.0(4位)	<p>このマップは、魅力（ホーム）の観点から、「在住」の魅力(生活)、訪問の魅力(観光)、投資・提携の魅力(経済)、東アジアからの人・企業の訪問等の実績、「交流」の魅力(学術・文化・芸術)を評価しています。</p>
	「訪問」の魅力(観光)	50.1(6位)	
	「投資・提携」の魅力(経済)	42.7(8位)	
	東アジアからの人・企業の訪問等の実績	43.8(8位)	
	「交流」の魅力(学術・文化・芸術)	44.0(8位)	
パートナーシップ	移動・輸送バリア	45.4(8位)	<p>このマップは、パートナーシップの観点から、移動・輸送バリア、東アジアとの交流の緊密度、二国間優遇措置、国際協力・支援、規格基準の共通性、民族・文化の共通性を評価しています。</p>
	東アジアとの交流の緊密度	54.1(3位)	
	二国間優遇措置	—	
	国際協力・支援	43.6(7位)	
	規格基準の共通性	—	
	民族・文化の共通性	40.9(8位)	
基礎体力	教育	51.8(4位)	<p>このマップは、基礎体力の観点から、教育、社会経済の規模、エネルギー・食糧・鉱業資源、財政状況、環境負荷、インフラ、社会の安定性・信頼性を評価しています。</p>
	社会経済の規模	45.0(8位)	
	エネルギー・食糧・鉱業資源	46.8(6位)	
	財政状況	57.9(3位)	
	環境負荷	45.8(8位)	
	インフラ	46.7(8位)	
	社会の安定性・信頼性	53.9(2位)	

中部圏 ーバランスのとれた国際競争力ー

競争優位性

- ・ 首都圏には劣るものの、「域内人材の活力」を除いて、全ての中項目で平均(50 ポイント)を上回っており、近畿圏とほぼ同程度の高評価(3位、54.2ポイント)。
- ・ 「市場の成熟度」が2位(60.4ポイント)と高くなっていることが、「競争優位性」の評価を牽引している。

魅力

- ・ 「投資・提携」の魅力は3位(56.7ポイント)と高評価となっているものの、「在住」の魅力が7位(48.3ポイント)、「訪問」の魅力が8位(47.4ポイント)と低い評価となっており、「魅力」全体の評価は3位(51.6ポイント)。
- ・ なお、中部圏の「訪問」の魅力については、世界遺産に指定されている白川郷だけでなく、富士山、飛騨高山、伊勢神宮などの観光資源にも恵まれている。2009年6月に富士山静岡空港が開港しており、これらの観光資源を活用して「訪問」の魅力を上向きさせることで、アジアをはじめとする訪日外国人の増加が期待される。

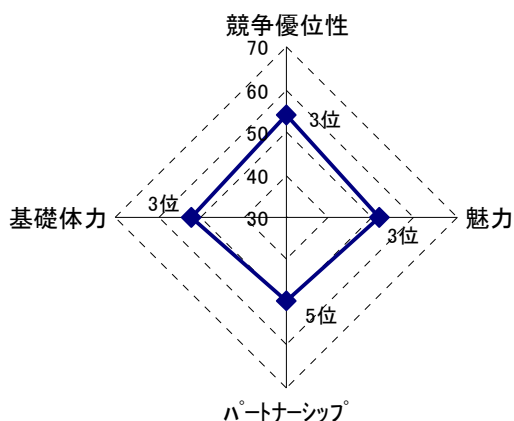
パートナーシップ

- ・ 「パートナーシップ」は、5位(49.4ポイント)と平均を若干下回る。「国際協力・支援等」が2位(57.7ポイント)と高評価を得ているものの、「東アジアとの交流の緊密度」の評価が10ブロック中最下位(43.4)となっており、中部圏の「パートナーシップ」の評価を大きく低下させている。
- ・ 東アジアへの航空旅客・貨物便数が首都圏、近畿圏と比べて少なく、今後、東アジアへの国際競争力を高めるためにも、「中部圏広域地方計画」に記載されているように、北陸圏と連携して歴史、自然、産業等多分野にわたる観光資源を生かした外国人観光客の誘客と、東アジア諸国との交易を拡大することが求められる。

基礎体力

- ・ 「エネルギー・食料・鉱業資源」を除く全項目で平均(50ポイント)以上の評価を得ており、「基礎体力」全体の順位は10ブロック中3位。
- ・ 「教育」については、国際コミュニケーション能力の高さが貢献し、首都圏、近畿圏に次ぐ3位。
- ・ 「環境負荷」については、GRPあたりのCO2排出量が少ないことから、61.5ポイントと高評価を得ているものの、自然エネルギーの発電量では39.5ポイントと評価は低く、10ブロック中5位(51.3ポイント)となっている。
- ・ 「社会経済の規模」は2位と高い評価を得ているが、経済活動が愛知県に一極集中する傾向にあり、ブロック内で地域格差が生じている。

中部圏



視点	ポイント(順位)
総合評価	51.8(3位)
競争優位性	54.2(3位)
魅力	51.6(3位)
パートナーシップ	49.4(5位)
基礎体力	52.3(3位)

視点	中項目	ポイント(順位)	マップ
競争優位性 (アウェイ)	東アジアとの貿易実績	50.0(5位)	<p>このマップは、競争優位性（アウェイ）の観点から、東アジアとの貿易実績、産業に関する技術水準、市場の成熟度、企業活動の効率性・生産性、域内人材の活力、知的財産の蓄積、ブランドカを評価しています。重要度は産業界の考えるウェイト（0-40）で、ブロックの評価（ポイント）は20-80で示されています。</p>
	産業に関する技術水準	56.9(2位)	
	市場の成熟度	60.4(2位)	
	企業活動の効率性・生産性	55.2(1位)	
	域内人材の活力	49.3(6位)	
	知的財産の蓄積	53.8(4位)	
	ブランドカ	51.4(3位)	
魅力 (ホーム)	「在住」の魅力(生活)	48.3(7位)	<p>このマップは、魅力（ホーム）の観点から、「在住」の魅力(生活)、訪問の魅力(観光)、投資・提携の魅力(経済)、東アジアからの人・企業の訪問等の実績、交流の魅力(学術・文化・芸術)を評価しています。</p>
	「訪問」の魅力(観光)	47.4(8位)	
	「投資・提携」の魅力(経済)	56.7(3位)	
	東アジアからの人・企業の訪問等の実績	50.3(3位)	
	「交流」の魅力(学術・文化・芸術)	49.2(4位)	
パートナーシップ	移動・輸送バリア	49.6(5位)	<p>このマップは、パートナーシップの観点から、移動・輸送バリア、東アジアとの交流の緊密度、二国間優遇措置、国際協力・支援、規格基準の共通性、民族・文化の共通性を評価しています。</p>
	東アジアとの交流の緊密度	43.4(10位)	
	二国間優遇措置	—	
	国際協力・支援	57.7(2位)	
	規格基準の共通性	—	
	民族・文化の共通性	50.9(4位)	
基礎体力	教育	54.7(3位)	<p>このマップは、基礎体力の観点から、社会経済の規模、エネルギー・食料・鉱業資源、財政状況、環境負荷、インフラ、社会の安定性・信頼性、教育を評価しています。</p>
	社会経済の規模	55.7(2位)	
	エネルギー・食料・鉱業資源	49.8(4位)	
	財政状況	50.2(6位)	
	環境負荷	51.3(5位)	
	インフラ	50.3(4位)	
	社会の安定性・信頼性	52.2(5位)	

近畿圏 — 競争優位性、魅力、パートナーシップに高い評価 —

競争優位性

- ・ 中項目に突出した高評価はないものの、全ての中項目で平均(50ポイント)を上回り、「競争優位性」全体では首都圏に次ぐ2位。
- ・ 「域内人材の活力」は2位(57.3ポイント)。一般的に各データのポイントは高く、特に労働人口あたりの大学卒業者の比率は62.6ポイントと高評価。

魅力

- ・ 「「在住」の魅力」を除いて、全ての中項目で平均(50ポイント)を上回る。特に「東アジアからの人・企業の訪問等の実績」のポイントが高く59.9ポイント(2位)となっている。
- ・ 「「在住」の魅力」については、犯罪率、物価が高いため、10ブロック中最下位(45.4ポイント)となっているものの、インターナショナルスクールが多く、外国人が生活する上での教育の充実度が高いという面もある。
- ・ 近畿圏には多数の世界遺産があるため、世界遺産のデータは73.9ポイントと突出して高いものの、訪日外国人による観光地推薦率、外国人観光客あたりの外国人向け案内所の数や外国人観光客あたりの国際観光旅館の数は少なく、「訪問」の魅力の評価は低くなっている。豊富な観光資源を活かすためにも、観光サービスの充実を図るなどの取り組みが求められる。

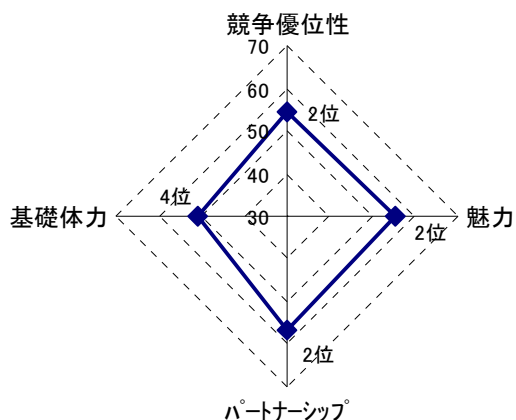
パートナーシップ

- ・ 突出して評価が高い項目はないものの、全ての中項目で平均(50ポイント)を上回っており、首都圏について2位。
- ・ データ別にみると、「移動・輸送バリア」の東アジア諸国への国際航空貨物便数では69.5ポイント、「東アジアとの交流の緊密度」の東アジア諸国との海上貨物取引量では61.5ポイントと、首都圏(71.5ポイント)に次いで2位と高い評価を得ており、物流面におけるパートナーシップ力が強いことが分かる。

基礎体力

- ・ 「財政状況」、「エネルギー・食糧・鉱業資源」、「社会の安定性・信頼性」の評価が低いものの、「環境負荷」、「インフラ」(特に通信基盤)、「教育」で高く評価されているため、「基礎体力」全体の評価は10ブロック中4位。
- ・ 「社会経済の規模」は3位と首都圏、中部圏に劣後している。これは、一人当たりGRPが首都圏、中部圏では60ポイント以上であるのに対し、近畿圏では53.6ポイントと大きく劣後しているため。
- ・ 「財政状況」のポイントが低い原因は、大阪府の財政赤字が大きく寄与しており、8位となっている。

近畿圏



視点	ポイント(順位)
総合評価	54.2(2位)
競争優位性	54.3(2位)
魅力	55.3(2位)
パートナーシップ	56.8(2位)
基礎体力	50.9(4位)

視点	中項目	ポイント(順位)	マップ
競争優位性 (アウェイ)	東アジアとの貿易実績	51.2(4位)	<p>このマップは、競争優位性（アウェイ）の観点から、東アジアとの貿易実績、産業に関する技術水準、市場の成熟度、企業活動の効率性・生産性、域内人材の活力、知的財産の蓄積、ブランドカを評価しています。重要度は産業界の考えるウェイト（0-40）で、ブロックの評価（ポイント）は20-80で示されています。</p>
	産業に関する技術水準	54.1(3位)	
	市場の成熟度	56.4(3位)	
	企業活動の効率性・生産性	50.6(5位)	
	域内人材の活力	57.3(2位)	
	知的財産の蓄積	54.5(3位)	
	ブランドカ	54.3(2位)	
魅力 (ホーム)	「在住」の魅力(生活)	45.4(10位)	<p>このマップは、魅力（ホーム）の観点から、「在住」の魅力(生活)、訪問の魅力(観光)、投資・提携の魅力(経済)、東アジアからの人・企業の訪問等の実績、交流の魅力(学術・文化・芸術)を評価しています。</p>
	「訪問」の魅力(観光)	52.7(3位)	
	「投資・提携」の魅力(経済)	57.7(2位)	
	東アジアからの人・企業の訪問等の実績	59.9(2位)	
	「交流」の魅力(学術・文化・芸術)	57.8(2位)	
パートナーシップ	移動・輸送バリア	59.5(2位)	<p>このマップは、パートナーシップの観点から、移動・輸送バリア、東アジアとの交流の緊密度、二国間優遇措置、国際協力・支援、規格基準の共通性、民族・文化の共通性を評価しています。</p>
	東アジアとの交流の緊密度	55.9(1位)	
	二国間優遇措置	—	
	国際協力・支援	54.5(3位)	
	規格基準の共通性	—	
	民族・文化の共通性	55.9(3位)	
基礎体力	教育	54.9(2位)	<p>このマップは、基礎体力の観点から、教育、社会経済の規模、エネルギー・食料・鉱業資源、財政状況、環境負荷、インフラ、社会の安定性・信頼性を評価しています。</p>
	社会経済の規模	53.0(3位)	
	エネルギー・食料・鉱業資源	46.1(8位)	
	財政状況	47.4(8位)	
	環境負荷	53.6(4位)	
	インフラ	53.4(2位)	
	社会の安定性・信頼性	44.8(9位)	

中国圏 — 全体的に平均より劣るものの、基礎体力に多少の強み—

競争優位性

- 「産業に関わる技術水準」(8位、45.6ポイント)、「ブランド力」(4位、46.2ポイント)を除く全ての中項目において平均(50ポイント)を上回っており、特に「東アジアとの貿易実績」および「知的財産の蓄積」が中国圏の「競争優位性」を大きく牽引し、「競争優位性」全体では三大都市圏に次ぐ4位。
- 「東アジアとの貿易実績」については、輸出量および貿易収支ともに高いポイントを得ており、三大都市圏を凌駕して1位。
- 「産業に関わる技術水準」については、工作機械の貿易収支で66.3ポイントと高評価を得ているものの、化学、石油精製などエネルギー消費量が多い基礎素材型産業が発展している中国圏においては、エネルギー集約度(環境技術)が23.5ポイントと突出して低くなっているため、10ブロック中8位(45.6ポイント)。

魅力

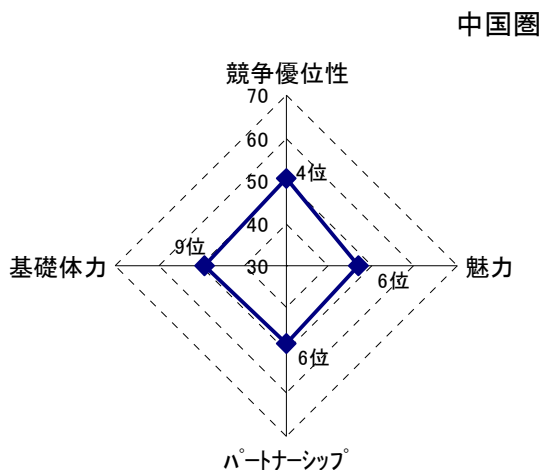
- 「訪問」の魅力を除く全ての中項目で平均(50ポイント)を下回っており、「魅力」全体の順位は10ブロック中6位。
- 特に、「東アジアからの人・企業の訪問等の実績」は45.0ポイント(7位)と評価ポイントが低くなっている。
- 中国圏には、出雲大社や原爆ドームなど、歴史的に重要な文化財が多数存在するものの、訪日外国人による観光地推薦率や東アジアからの訪問観光客数の増加率(リピート率)が低く、全体的に「訪問」の魅力は、評価が低くなっている。観光資源の魅力の向上と地域のPR強化が求められる。

パートナーシップ

- 「国際協力・支援等」では8位(42.8ポイント)と評価は低いものの、その他の中項目では突出した弱みもなく、「パートナーシップ」全体では10ブロック中6位。

基礎体力

- 「環境負荷」(3位、54.0ポイント)、「社会の安定性・信頼性」(3位、53.0ポイント)では比較的高評価を得ているものの、「エネルギー・食料・鉱業資源」(最下位、44.3ポイント)、「財政状況」(9位、45.6ポイント)が大きく評価を低下させ、「基礎体力」全体では10ブロック中9位(49.1ポイント)。
- 「財政状況」では、突出して低いデータはないものの、GRPあたりの財政収支額(46.9ポイント)、地域の信用力(44.3ポイント)がともに平均(50ポイント)を下回り、10ブロック中9位。
- エネルギー消費量が多い基礎素材型産業が発展している中国圏において、エネルギー効率の向上や環境負荷の削減は大きな課題となっているものの、国際航空便数が他地域と比べて少ないがために、「環境負荷」が3位(54.0ポイント)と高評価となる結果となっている。



視点	ポイント(順位)
総合評価	48.8(6位)
競争優位性	50.6(4位)
魅力	47.1(6位)
パートナーシップ	48.4(6位)
基礎体力	49.1(9位)

視点	中項目	ポイント(順位)	マップ
競争優位性 (アウェイ)	東アジアとの貿易実績	59.6(1位)	<p>このマップは、競争優位性（アウェイ）の観点から、各項目の重要度（産業界の考えるウェイト）と評価（ポイント）を比較しています。重要度は横軸（0-40）、評価は縦軸（20-80）で示されています。東アジアとの貿易実績は最も重要かつ評価が高い項目です。</p>
	産業に関わる技術水準	45.6(8位)	
	市場の成熟度	51.1(5位)	
	企業活動の効率性・生産性	51.4(2位)	
	域内人材の活力	50.9(4位)	
	知的財産の蓄積	54.7(2位)	
	ブランド力	46.2(4位)	
魅力 (ホーム)	「在住」の魅力(生活)	45.6(9位)	<p>このマップは、魅力（ホーム）の観点から、各項目の重要度と評価を比較しています。交流の魅力（学術・文化・芸術）は最も重要かつ評価が高い項目です。</p>
	「訪問」の魅力(観光)	51.8(5位)	
	「投資・提携」の魅力(経済)	46.8(6位)	
	東アジアからの人・企業の訪問等の実績	45.0(7位)	
	「交流」の魅力(学術・文化・芸術)	47.3(5位)	
パートナーシップ	移動・輸送バリア	48.4(6位)	<p>このマップは、パートナーシップの観点から、各項目の重要度と評価を比較しています。東アジアとの交流の緊密度は最も重要かつ評価が高い項目です。</p>
	東アジアとの交流の緊密度	50.6(5位)	
	二国間優遇措置	—	
	国際協力・支援	42.8(8位)	
	規格基準の共通性	—	
	民族・文化の共通性	50.9(5位)	
基礎体力	教育	48.5(6位)	<p>このマップは、基礎体力の観点から、各項目の重要度と評価を比較しています。社会の安定性・信頼性は最も重要かつ評価が高い項目です。</p>
	社会経済の規模	48.4(6位)	
	エネルギー・食料・鉱業資源	44.3(10位)	
	財政状況	45.6(9位)	
	環境負荷	54.0(3位)	
	インフラ	47.9(7位)	
	社会の安定性・信頼性	53.0(3位)	
	環境負荷	54.0(3位)	

四国圏 —競争優位性、魅力に弱み—

競争優位性

- ・ 全ての中項目で平均(50ポイント)を下回り、「競争優位性」全体では10ブロック中9位。特に、「産業に関わる技術水準」は最下位(44.3ポイント)。ただし、この点については、本評価指標においては四国圏が強みを有する素材型産業に関するデータが十分に盛り込まれていないことが一つの要因と考えられる。
- ・ 「域内人材の活力」は10ブロック中8位(47.5ポイント)。地元大学への進学率が最下位(37.8ポイント)であることが大きく影響。

魅力

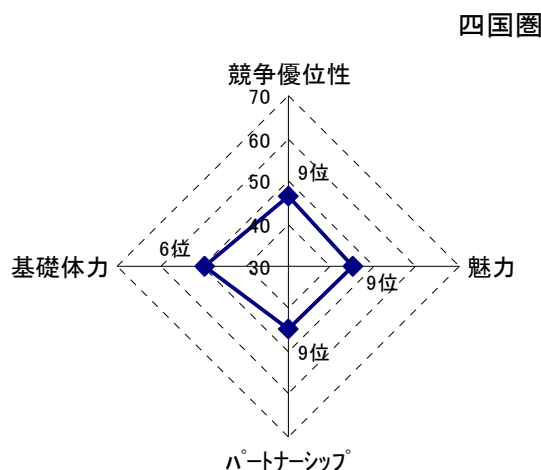
- ・ 物価が安いため「在住」の魅力は2位(52.6ポイント)になっているが、その他の中項目は全て平均(50ポイント)を下回り、「魅力」全体では10ブロック中9位。
- ・ 特に、「投資・提携」の魅力(9位、42.7ポイント)、「東アジアからの人・企業の訪問等の実績」(9位、43.3ポイント)は低評価となっており、四国圏の「魅力」を低いものにしてている。
- ・ 「訪問」の魅力については、訪日外国人による観光地推薦率が10ブロック中最下位となっていることが大きく影響し、10ブロック中9位(45.5ポイント)。

パートナーシップ

- ・ 地理的には相対的に東アジア諸国に近いものの、東アジアへの国際線運航便数が少なく、「パートナーシップ」全体では10ブロック中9位。
- ・ ただし、四国圏広域地方計画では、中国圏とともに東アジア諸国をターゲットに空港・港湾・高速道路、本四連絡橋といった既存の交通インフラを活用し、インバウンド観光の推進を図っている。

基礎体力

- ・ 「社会の安定性・信頼性」(4位、52.7ポイント)、「財政状況」(1位、68.8ポイント)の高評価により、「基礎体力」全体では10ブロック中6位。



視点	ポイント(順位)
総合評価	46.7(9位)
競争優位性	46.6(9位)
魅力	45.3(9位)
パートナーシップ	44.8(9位)
基礎体力	49.5(6位)

視点	中項目	ポイント(順位)	マップ																								
競争優位性 (アウェイ)	東アジアとの貿易実績	46.6(7位)	<p>このマップは、競争優位性（アウェイ）に関する7つの指標を、重要度（産業界の考えるウェイト）とブロックの評価（ポイント）のグラフ上にプロットしています。重要度は横軸（0-40）、評価は縦軸（20-80）で示されています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>重要度 (ウェイト)</th> <th>評価 (ポイント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知的財産の蓄積</td> <td>~15</td> <td>~55</td> </tr> <tr> <td>東アジアとの貿易実績</td> <td>~15</td> <td>~45</td> </tr> <tr> <td>ブランドカ</td> <td>~10</td> <td>~35</td> </tr> <tr> <td>市場の成熟度</td> <td>~25</td> <td>~40</td> </tr> <tr> <td>国内人材の活力</td> <td>~25</td> <td>~55</td> </tr> <tr> <td>企業活動の効率性・生産性</td> <td>~25</td> <td>~65</td> </tr> </tbody> </table>	指標	重要度 (ウェイト)	評価 (ポイント)	知的財産の蓄積	~15	~55	東アジアとの貿易実績	~15	~45	ブランドカ	~10	~35	市場の成熟度	~25	~40	国内人材の活力	~25	~55	企業活動の効率性・生産性	~25	~65			
	指標	重要度 (ウェイト)		評価 (ポイント)																							
	知的財産の蓄積	~15		~55																							
	東アジアとの貿易実績	~15		~45																							
	ブランドカ	~10		~35																							
	市場の成熟度	~25		~40																							
	国内人材の活力	~25		~55																							
企業活動の効率性・生産性	~25	~65																									
産業に関わる技術水準	44.3(10位)																										
市場の成熟度	45.8(7位)																										
企業活動の効率性・生産性	49.5(8位)																										
域内人材の活力	47.5(8位)																										
知的財産の蓄積	48.8(7位)																										
ブランドカ	45.2(9位)																										
魅力 (ホーム)	「在住」の魅力(生活)	52.6(2位)	<p>このマップは、魅力（ホーム）に関する5つの指標をプロットしています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>重要度 (ウェイト)</th> <th>評価 (ポイント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「在住」の魅力(生活)</td> <td>~15</td> <td>~65</td> </tr> <tr> <td>「訪問」の魅力(観光)</td> <td>~15</td> <td>~55</td> </tr> <tr> <td>東アジアからの人・企業の訪問等の実績</td> <td>~15</td> <td>~45</td> </tr> <tr> <td>「交流」の魅力(学術・文化・芸術)</td> <td>~25</td> <td>~55</td> </tr> <tr> <td>「投資・提携」の魅力(経済)</td> <td>~35</td> <td>~45</td> </tr> </tbody> </table>	指標	重要度 (ウェイト)	評価 (ポイント)	「在住」の魅力(生活)	~15	~65	「訪問」の魅力(観光)	~15	~55	東アジアからの人・企業の訪問等の実績	~15	~45	「交流」の魅力(学術・文化・芸術)	~25	~55	「投資・提携」の魅力(経済)	~35	~45						
	指標	重要度 (ウェイト)		評価 (ポイント)																							
	「在住」の魅力(生活)	~15		~65																							
	「訪問」の魅力(観光)	~15		~55																							
	東アジアからの人・企業の訪問等の実績	~15		~45																							
「交流」の魅力(学術・文化・芸術)	~25	~55																									
「投資・提携」の魅力(経済)	~35	~45																									
「訪問」の魅力(観光)	45.5(9位)																										
「投資・提携」の魅力(経済)	42.7(9位)																										
東アジアからの人・企業の訪問等の実績	43.3(9位)																										
「交流」の魅力(学術・文化・芸術)	46.1(7位)																										
パートナーシップ	移動・輸送バリア	47.9(7位)	<p>このマップは、パートナーシップに関する6つの指標をプロットしています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>重要度 (ウェイト)</th> <th>評価 (ポイント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パートナーシップ</td> <td>~10</td> <td>~75</td> </tr> <tr> <td>移動・輸送バリア</td> <td>~25</td> <td>~55</td> </tr> <tr> <td>国際協力・支援</td> <td>~15</td> <td>~45</td> </tr> <tr> <td>民族・文化の共通性</td> <td>~10</td> <td>~35</td> </tr> <tr> <td>東アジアとの交流の緊密度</td> <td>~25</td> <td>~45</td> </tr> <tr> <td>民族・文化の共通性</td> <td>~10</td> <td>~30</td> </tr> </tbody> </table>	指標	重要度 (ウェイト)	評価 (ポイント)	パートナーシップ	~10	~75	移動・輸送バリア	~25	~55	国際協力・支援	~15	~45	民族・文化の共通性	~10	~35	東アジアとの交流の緊密度	~25	~45	民族・文化の共通性	~10	~30			
	指標	重要度 (ウェイト)		評価 (ポイント)																							
	パートナーシップ	~10		~75																							
	移動・輸送バリア	~25		~55																							
	国際協力・支援	~15		~45																							
	民族・文化の共通性	~10		~35																							
東アジアとの交流の緊密度	~25	~45																									
民族・文化の共通性	~10	~30																									
東アジアとの交流の緊密度	45.1(9位)																										
二国間優遇措置	—																										
国際協力・支援	44.0(6位)																										
規格基準の共通性	—																										
民族・文化の共通性	39.6(9位)																										
基礎体力	教育	47.6(8位)	<p>このマップは、基礎体力に関する7つの指標をプロットしています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>重要度 (ウェイト)</th> <th>評価 (ポイント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>財政状況</td> <td>~15</td> <td>~75</td> </tr> <tr> <td>社会の安定性・信頼性</td> <td>~25</td> <td>~65</td> </tr> <tr> <td>環境負荷</td> <td>~15</td> <td>~55</td> </tr> <tr> <td>エネルギー・食糧・鉱業資源</td> <td>~15</td> <td>~45</td> </tr> <tr> <td>教育</td> <td>~25</td> <td>~45</td> </tr> <tr> <td>社会経済の規模</td> <td>~15</td> <td>~35</td> </tr> <tr> <td>インフラ</td> <td>~25</td> <td>~35</td> </tr> </tbody> </table>	指標	重要度 (ウェイト)	評価 (ポイント)	財政状況	~15	~75	社会の安定性・信頼性	~25	~65	環境負荷	~15	~55	エネルギー・食糧・鉱業資源	~15	~45	教育	~25	~45	社会経済の規模	~15	~35	インフラ	~25	~35
	指標	重要度 (ウェイト)		評価 (ポイント)																							
	財政状況	~15		~75																							
	社会の安定性・信頼性	~25		~65																							
	環境負荷	~15		~55																							
	エネルギー・食糧・鉱業資源	~15		~45																							
	教育	~25		~45																							
社会経済の規模	~15	~35																									
インフラ	~25	~35																									
社会経済の規模	43.3(9位)																										
エネルギー・食糧・鉱業資源	47.4(5位)																										
財政状況	68.8(1位)																										
環境負荷	49.3(7位)																										
インフラ	44.5(9位)																										
社会の安定性・信頼性	52.7(4位)																										

九州圏 ー地理的優位性を生かし、パートナーシップ力に強みー

競争優位性

- ・ 「東アジアとの貿易実績」(2位、56.8ポイント)が「競争優位性」を大きく牽引しているものの、「市場の成熟度」(9位、42.4ポイント)の低評価が影響し、中国圏に次ぐ5位。
- ・ 「東アジアとの貿易実績」については、二次産業の貿易額、貿易実績ともに60ポイント以上の高評価を得ているものの、一次産業に関する貿易実績が乏しいため中国圏に次ぐ2位にとどまった。

魅力

- ・ 「投資・提携」の魅力が若干低いものの、「在住」、「訪問」、「交流」の魅力において、比較的高い評価を得ている。全ての中項目が5位以内であり、「魅力」全体では三大都市圏に次ぐ4位。
- ・ 「訪問」の魅力は、訪日外国人による観光地推薦率の高さ(59.8ポイント)や、東アジアからの訪日外国人に人気の高い観光資源としての温泉湧出量の豊富さから観光地としての人気は高く、東北圏に次ぐ2位。ただし、東アジアからの訪問観光客数が伸び悩んでいることに留意が必要。

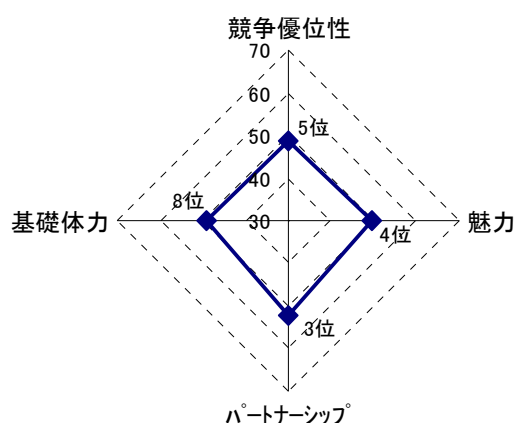
パートナーシップ

- ・ 「東アジアとの交流の緊密度」を除き、全ての項目で平均(50ポイント)を上回り、三大都市圏の中部圏を抜いて3位。
- ・ 「東アジアとの交流の緊密度」については、突出して低いデータはないものの、小項目の貿易の緊密度に関するデータが全て平均(50ポイント)を下回っており、全体の順位は6位(49.1ポイント)。一方、都市あたりの東アジアとの姉妹都市提携数については59.2ポイントと高い評価を得ている。
- ・ 地理的に東アジア諸国と近いことも寄与し、「移動・輸送バリア」の評価は高くなっている。ただし、九州圏のハブ空港となる福岡空港の発着容量の余裕がわずかであり、交流頻度を増やすためにも、空港施設の整備が喫緊の課題。
- ・ 「民族・文化の共通性」の項目で62.1ポイントと高評価を得ているのは、語学検定(東アジア諸国の言語)の開催場所の数が多いことが大きく寄与している。

基礎体力

- ・ 「環境負荷」(2位、58.3ポイント)に多少の強みがあるものの、突出した強み・弱みはなく、「基礎体力」全体では10ブロック中8位(49.3ポイント)。
- ・ 高評価を得ている「環境負荷」については、自然エネルギーの発電量(66.1ポイント)が大きく貢献している。

九州圏



視点	ポイント(順位)
総合評価	49.9(4位)
競争優位性	48.5(5位)
魅力	49.8(4位)
パートナーシップ	52.1(3位)
基礎体力	49.3(8位)

視点	中項目	ポイント(順位)	マップ
競争優位性 (アウェイ)	東アジアとの貿易実績	56.8(2位)	<p>このマップは、競争優位性（アウェイ）の観点から、東アジアとの貿易実績、産業活動の効率性・生産性、知的財産の蓄積、ブランドカ、市場の成熟度、産業に関わる技術、国内人材の活力を評価しています。縦軸はブロックの評価（ポイント）で20から80、横軸は重要度（産業界の考えるウェイト）で0から40を示しています。</p>
	産業に関わる技術水準	46.3(6位)	
	市場の成熟度	42.4(9位)	
	企業活動の効率性・生産性	49.6(7位)	
	域内人材の活力	50.6(5位)	
	知的財産の蓄積	51.9(5位)	
	ブランドカ	45.4(5位)	
魅力 (ホーム)	「在住」の魅力(生活)	51.1(3位)	<p>このマップは、魅力（ホーム）の観点から、「在住」の魅力(生活)、訪問の魅力(観光)、交流の魅力(学術・文化・芸術)、投資・提携の魅力(経済)、東アジアからの人・企業の訪問等の実績を評価しています。縦軸はブロックの評価（ポイント）で20から80、横軸は重要度（産業界の考えるウェイト）で0から40を示しています。</p>
	「訪問」の魅力(観光)	53.7(2位)	
	「投資・提携」の魅力(経済)	47.7(5位)	
	東アジアからの人・企業の訪問等の実績	50.1(4位)	
	「交流」の魅力(学術・文化・芸術)	49.2(3位)	
パートナーシップ	移動・輸送バリア	51.1(4位)	<p>このマップは、パートナーシップの観点から、パートナーシップ、民族・文化の共通性、国際協力・支援、移動・輸送バリア、東アジアとの交流の緊密度を評価しています。縦軸はブロックの評価（ポイント）で20から80、横軸は重要度（産業界の考えるウェイト）で0から40を示しています。</p>
	東アジアとの交流の緊密度	49.1(6位)	
	二国間優遇措置	—	
	国際協力・支援	50.5(5位)	
	規格基準の共通性	—	
	民族・文化の共通性	62.1(2位)	
基礎体力	教育	48.0(7位)	<p>このマップは、基礎体力の観点から、基礎体力、環境負荷、インフラ、エネルギー・食糧・鉱業資源、財政状況、社会経済の規模、教育、社会の安定性・信頼性を評価しています。縦軸はブロックの評価（ポイント）で20から80、横軸は重要度（産業界の考えるウェイト）で0から40を示しています。</p>
	社会経済の規模	48.2(7位)	
	エネルギー・食糧・鉱業資源	50.7(3位)	
	財政状況	50.3(5位)	
	環境負荷	58.3(2位)	
	インフラ	49.3(6位)	
	社会の安定性・信頼性	45.2(8位)	

沖縄 — 全体的に低い評価 —

※国土形成計画のブロック区分に基づいて区分したため、沖縄県単独の評価になっている。

競争優位性

- ・ 「市場の成熟度」、「域内人材の活力」、「知的財産の蓄積」は最下位となっており、「競争優位性」全体においても10ブロック中最下位。
- ・ ただし、「企業活動の効率性・生産性」のデータのうち、資本係数(65.1ポイント)、人件費(58.1ポイント)が高い評価を得ており、10ブロック中6位。

魅力

- ・ 「「在住」の魅力」を除き、全ての中項目で最下位となっているため、「魅力」全体でも10ブロック中最下位。
- ・ 一方、「「在住」の魅力」については、消費者物価指数(69.7ポイント)、在日東アジア国籍者あたりの日本語学校数(76.1ポイント)といった物価、教育のデータが寄与し、10ブロック中1位。
- ・ 「「訪問」の魅力」は最下位となっているものの、訪日外国人による観光地推薦率は64.4ポイントと全てのブロックの中で最も高い評価を得ており、外国人観光客を対象とした観光サービスの充実を図ることで、沖縄の「魅力」を向上させることができるようになると考えられる。

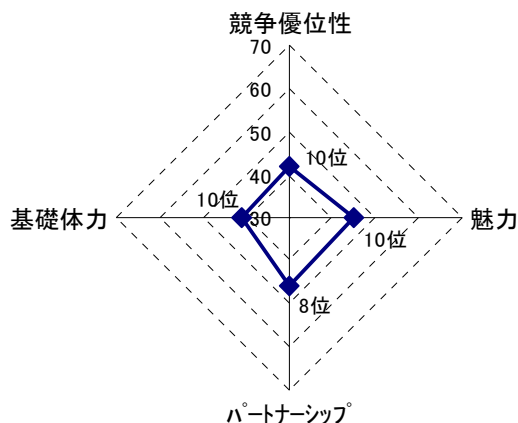
パートナーシップ

- ・ 4つの視点のうち、唯一最下位を免れ8位にランクイン。
- ・ 「移動・輸送バリア」は、地理的近接性を生かし3位。ただし、東アジア諸国への国際線運航便数が少なく、地理的な優位性を生かしきれない点が課題。
- ・ 「東アジアとの交流の緊密度」については、貿易結合度の二次産業・輸出および一次産業の輸入において、60ポイントを超える高評価を得たことにより、10ブロック中7位になっている。

基礎体力

- ・ 「財政状況」については4位(52.5ポイント)と高評価を得ている。沖縄県の健全な財政状況の評価が大きく貢献している。

沖縄



視点	ポイント(順位)
総合評価	43.4(10位)
競争優位性	41.9(10位)
魅力	44.9(10位)
パートナーシップ	46.0(8位)
基礎体力	41.0(10位)

視点	中項目	ポイント(順位)	マップ
競争優位性 (アウェイ)	東アジアとの貿易実績	45.9(9位)	<p>このマップは、競争優位性（アウェイ）の観点から、東アジアとの貿易実績、産業に関する技術水準、市場の成熟度、企業活動の効率性・生産性、域内人材の活力、知的財産の蓄積、ブランドカを評価しています。重要度は産業界の考えるウェイト（0-40）で、ブロックの評価（ポイント）は20-80で示されています。</p>
	産業に関する技術水準	45.8(7位)	
	市場の成熟度	29.7(10位)	
	企業活動の効率性・生産性	49.8(6位)	
	域内人材の活力	39.9(10位)	
	知的財産の蓄積	36.7(10位)	
	ブランドカ	45.0(10位)	
魅力 (ホーム)	「在住」の魅力(生活)	59.8(1位)	<p>このマップは、魅力（ホーム）の観点から、「在住」の魅力(生活)、観光の魅力(観光)、経済の魅力(投資・提携)、東アジアからの人・企業の訪問等の実績、学術・文化・芸術の魅力(交流)を評価しています。</p>
	「訪問」の魅力(観光)	42.7(10位)	
	「投資・提携」の魅力(経済)	40.7(10位)	
	東アジアからの人・企業の訪問等の実績	43.0(10位)	
	「交流」の魅力(学術・文化・芸術)	42.1(10位)	
パートナーシップ	移動・輸送バリア	52.1(3位)	<p>このマップは、パートナーシップの観点から、移動・輸送バリア、国際協力・支援、規格基準の共通性、民族・文化の共通性、東アジアとの交流の緊密度を評価しています。</p>
	東アジアとの交流の緊密度	48.2(7位)	
	二国間優遇措置	—	
	国際協力・支援	40.1(10位)	
	規格基準の共通性	—	
	民族・文化の共通性	37.1(10位)	
基礎体力	教育	36.2(10位)	<p>このマップは、基礎体力の観点から、教育、社会経済の規模、エネルギー・食糧・鉱業資源、財政状況、環境負荷、インフラ、社会の安定性・信頼性を評価しています。</p>
	社会経済の規模	37.9(10位)	
	エネルギー・食糧・鉱業資源	46.2(7位)	
	財政状況	52.5(4位)	
	環境負荷	33.7(10位)	
	インフラ	43.4(10位)	
	社会の安定性・信頼性	41.6(10位)	

(参考1) 広域地方ブロック別 JADEX の体系と個別指標の偏差値 (競争優位性・魅力)

大項目	中項目	小項目	用いる指標(案)	東アジアとの関係	ブロック別データの収集可否
東アジア市場における競争優位性 (24.8)	東アジアとの貿易実績 (9.8)	貿易額	東アジアへの当該地域からの輸出量(一次産業)	○	○
			東アジアへの当該地域からの輸出量(二次産業)	○	○
		貿易の収支	東アジアとの貿易収支(一次産業)	○	○
			東アジアとの貿易収支(二次産業)	○	○
	企業活動の効率性・生産性 (13.6)	労働の生産性	労働生産性	×	○
			資本の生産性	×	○
			人件費の水準	×	○
			資金調達の容易さ	×	○
	産業に関わる技術水準 (21.4)	産業用技術	工作機械の貿易収支(品目分類84類一部(8457-8468))	×	○
			国際特許出願数	×	○
			技能オリンピック獲得メダル数(重みつき合計)	×	○
		環境技術	エネルギー集約度(最終エネルギー消費/GRP)	×	○
	IT投資/活用	IT技術力 ⇒IPアドレスの数(IT環境の先進性に関する評価)	×	○	
	市場の成熟度 (14.6)	域内市場規模	地域内の一人当たり家計消費支出	×	○
	域内人材の活力 (17.0)	教育機関	地元大学への進学者率	×	○
			労働生産人口あたりの大学卒業者の比率	×	○
			他地域からの進学者の比率	×	○
	起業の活発さ	起業活動を行った人材の割合	×	○	
知的財産の蓄積 (11.3)	R&D投資	研究所の数	×	○	
	技術輸出	博士の人数 ⇒ 博士課程卒業者 技術輸出額 ⇒ 製造業出荷額/従業者数	×	○	
ブランド力 (12.3)	エクセレントカンパニー	優れた会社ランキングの上位社数	×	○	
		優良企業ランキングの上位社数	×	○	
当該地域企業のイメージ	企業ブランドランキングの上位社数	×	○		
「在住」の魅力 (生活) (17.2)	医療・福祉の充実度	住民10万人当たり犯罪率	×	○	
		消費者物価指数	×	○	
	物価の安さ	家賃価格	×	○	
		教育の充実度	インターナショナルスクールの数	○	○
都市の利便性の高さ	在日東アジア国籍者あたりの日本語学校数	○	○		
「訪問」の魅力 (観光) (13.8)	魅力的な観光資源の多さ	主要都市人口当たりの都市鉄道の延長	×	○	
		訪日外国人による観光地推薦率	○	○	
	観光サービスの充実度	温泉の湧出量	○	○	
		世界遺産の数	×	○	
外国人観光客あたりの外国人向け案内所の数(TIC)	×	○			
外国人観光客あたりの国際観光旅館の数	×	○			
東アジアからの訪問観光客数の増加率(リポート率)	○	○			
「投資・提携」の魅力 (経済) (35.1)	企業の能力の高さ	ISO(9000)認証取得企業数	×	○	
東アジアからの人・企業の訪問等の実績 (16.6)	地域内に住む東アジアの人	地域内在住外国人(東アジア国籍)数	○	○	
	東アジアからの留学生	東アジアからの留学生数	○	○	
	訪問観光客	東アジアからの訪問観光客数	○	○	
「交流」の魅力 (学術・文化・芸術) (17.3)	学術のレベルの高さ	世界大学評価ランキングの上位大学数	×	○	
		東アジアからの留学・研修目的の来訪者数	○	○	

北海道	東北圏	首都圏	北陸圏	中部圏	近畿圏	中国圏	四国圏	九州圏	沖縄
45.7	42.5	68.7	39.9	43.8	60.8	61.2	45.9	50.3	41.3
40.6	44.4	53.1	42.4	51.9	52.6	68.1	43.2	64.5	39.2
60.7	49.9	33.6	59.7	53.2	37.3	43.9	54.4	44.6	62.7
41.0	42.6	52.4	42.5	51.1	54.0	65.2	42.8	67.7	40.6
41.9	43.1	68.1	49.2	60.3	59.3	54.0	44.1	42.5	37.4
30.3	52.3	39.9	54.7	57.7	41.8	50.6	53.4	54.1	65.1
55.7	52.4	24.5	56.5	45.0	46.1	53.8	56.6	51.3	58.1
42.6	48.9	73.0	42.6	57.7	55.1	47.1	43.8	50.5	38.8
41.8	43.9	43.2	64.4	59.9	52.4	66.3	42.3	45.4	40.4
44.9	45.1	75.5	44.9	49.8	59.0	45.5	45.2	45.4	44.7
43.7	50.9	69.5	43.7	67.4	46.8	46.8	43.7	43.7	43.7
49.6	53.8	54.8	55.6	54.8	55.5	23.5	46.2	48.3	57.8
44.6	46.8	75.5	43.5	52.4	56.6	45.8	43.8	48.7	42.3
56.1	45.5	64.2	48.4	60.4	56.4	51.1	45.8	42.4	29.7
70.4	43.1	50.2	38.5	49.8	50.9	45.9	37.8	51.8	61.5
41.5	37.5	70.9	48.3	50.6	62.6	51.6	48.5	45.6	42.9
34.7	50.2	62.0	58.5	46.7	59.5	53.4	53.6	49.4	32.0
57.7	50.7	56.7	47.7	50.0	56.0	52.5	50.0	55.4	23.2
41.7	64.5	63.3	40.1	51.3	54.5	48.9	46.9	55.7	33.3
44.8	47.7	74.8	43.9	48.9	59.6	46.4	43.5	48.4	42.0
44.2	41.7	49.0	43.2	61.3	49.5	68.7	56.0	51.7	34.7
45.3	45.3	77.1	45.6	50.2	54.7	45.8	45.3	45.6	45.1
45.3	45.6	77.0	45.2	50.5	54.8	46.0	45.3	45.5	44.9
45.0	45.0	76.7	45.0	53.3	53.3	46.7	45.0	45.0	45.0
56.2	61.0	40.9	60.9	42.6	28.8	53.9	51.3	50.3	54.2
42.6	53.7	37.3	45.7	46.3	40.8	46.5	59.1	58.4	69.7
57.0	54.0	26.3	57.9	50.7	39.2	49.4	57.6	54.8	53.1
44.6	45.7	73.9	44.2	49.4	62.0	46.1	44.2	45.3	44.6
50.2	46.4	49.3	45.0	44.3	46.0	44.0	42.4	56.3	76.1
51.2	35.0	51.5	52.4	56.6	55.7	33.5	61.1	41.7	61.3
64.2	44.2	53.0	47.3	42.6	48.0	41.2	35.5	59.8	64.4
49.6	63.9	50.6	42.1	54.2	46.4	44.1	40.7	69.3	39.2
47.3	47.3	47.3	40.7	47.3	73.9	60.6	40.7	47.3	47.3
39.5	66.5	47.0	44.9	45.2	47.9	58.6	64.4	49.2	36.8
45.2	49.1	44.7	70.0	49.3	49.7	62.2	48.6	48.5	32.8
68.2	64.2	44.7	55.5	46.0	50.3	44.1	43.4	48.1	35.5
43.3	48.5	73.2	42.7	56.7	57.7	46.8	42.7	47.7	40.7
43.5	45.4	74.1	44.1	53.7	59.6	46.2	43.9	46.4	43.0
44.4	45.9	76.7	44.7	48.9	54.6	46.2	44.1	50.7	43.7
47.8	46.1	69.8	42.7	48.1	65.6	42.4	42.0	53.2	42.3
43.5	46.6	74.6	43.5	46.6	59.0	49.7	46.6	49.7	40.4
43.9	46.2	75.8	44.6	51.8	56.7	44.8	43.6	48.8	43.8

偏差値40以下
偏差値60以上

小数点以下:0桁 人数、国数等
小数点以下:1桁 ~率、単位が%の項目、単位が金額の項目、単位が~当たりの人数の項目等
※但し、値が小さいため、上記に倣わない場合もあり

全国版JADEXのデータのうち、ブロック別に取得できないもの
全国版JADEXより追加・修正したデータ

(参考1) 広域地方ブロック別 JADEX の体系と個別指標の偏差値 (パートナーシップ・基礎体力)

大項目	中項目	小項目	用いる指標(案)	東アジアとの関係	ブロック別データの収集可否	
東アジアにおけるパートナーシップ力 (26.5)	移動・輸送バリア (21.4)	地理的距離	首都間距離合計	○	○	
		移動機会の頻度	東アジア諸国への国間月間航空旅客便数	○	○	
		輸送機会の頻度	東アジア諸国への国間月間航空貨物便数(フレーター便)	○	○	
	東アジアとの交流の緊密度 (22.1)	貿易の緊密度	一次産業の貿易結合度(輸出面)		○	○
			二次産業の貿易結合度(輸出面)		○	○
			一次産業の貿易結合度(輸入面)		○	○
			二次産業の貿易結合度(輸入面)		○	○
			東アジア諸国との海上貨物取引量(トン)		○	○
	国際協力・支援 (13.7)	国際援助	JICA派遣人員		○	○
		東アジアへの対外直接投資	JETROのセミナー開催回数		○	○
民族・文化の共通性 (11.1)	言語	語学検定の開催場所の数		○	○	
東アジアにおける国際競争力を支える基礎体力 (27.6)	教育 (21.3)	国際コミュニケーション能力	英語検定1級+準1級合格率	×	○	
		基礎学力	読解能力テストの平均点		×	○
			数学的能力テストの平均点		×	○
		研究基盤	研究者数		×	○
	社会経済の規模 (12.7)	地域の経済力	GRP(地域内総生産)		×	○
			一人当たりGRP		×	○
		領域	圏域面積		×	○
	エネルギー・食糧・鉱業資源 (10.0)	天然資源	鉱業生産量(金額換算)⇒鉱山の数		×	○
			エネルギー生産量(石油換算重量)		×	○
		自給率	水資源の量(ダム容量)+淡水湖		×	○
財政状況 (9.4)	財政状況	1次エネルギーの余剰量		×	○	
		食糧品の自給率(生産-消費)		×	○	
環境負荷 (10.5)	環境負荷	GRPあたりのCO2排出量		×	○	
		森林の占有面積		×	○	
		自然エネルギー発電量		×	○	
インフラ (18.3)	港湾	港湾取扱いコンテナ個数		×	○	
		大型船が寄港できるバースの数		×	○	
	空港	国際線利用者数		×	○	
		国際貨物取扱量		×	○	
	道路	空港の発着容量		×	○	
		高速道路延長		×	○	
	鉄道	1000kmあたりの鉄道駅数		×	○	
		高速鉄道延長		×	○	
		鉄道貨物量		×	○	
	エネルギー	GRPあたりの発電容量		×	○	
上下水道	下水処理施設の普及率		×	○		
ビジネスインフラ	通信基盤	人口100人あたりのブロードバンド契約数		×	○	
	対事業所サービス業の事業所数の比率	人口あたりの会計士、税理士の登録者数		×	○	
		人口あたりの弁護士の数		×	○	
社会の安定性・信頼性 (17.8)		政治的安定性	極悪犯罪件数の数		×	○
	ジニ係数			×	○	
	生活の安定性	消費者物価指数の変化率(インフレ率)		×	○	
		自殺率		×	○	
失業率		×	○			

小数点以下:0桁 人数、国数等
 小数点以下:1桁 ~率、単位が%の項目、単位が金額の項目、単位が~当たりの人数の項目等
 ※但し、値が小さいため、上記に合わない場合もあり

北海道	東北圏	首都圏	北陸圏	中部圏	近畿圏	中国圏	四国圏	九州圏	沖縄
34.1	39.1	42.9	47.3	47.9	50.6	55.6	55.5	59.3	67.8
44.8	44.8	75.0	43.8	51.4	58.6	45.0	43.4	49.3	44.0
44.8	44.7	68.1	45.0	49.3	69.5	44.7	44.7	44.7	44.7
58.6	58.8	39.6	66.2	38.7	52.1	55.2	35.7	48.5	46.6
50.2	52.1	45.5	61.9	31.8	52.5	47.2	43.5	46.9	68.4
36.7	58.2	47.8	53.3	41.1	59.2	44.0	49.6	41.1	69.0
50.3	60.2	40.9	57.3	44.1	52.5	56.9	60.4	49.1	28.5
43.3	44.1	71.5	42.6	56.4	61.5	45.6	42.7	49.8	42.4
42.5	57.6	63.9	43.2	48.2	57.9	54.5	38.8	59.2	34.2
44.8	49.3	74.7	42.0	53.5	54.6	45.9	42.7	52.1	40.5
39.6	58.1	67.4	45.2	61.9	54.4	39.6	45.2	48.9	39.6
45.9	48.4	68.4	40.9	50.9	55.9	50.9	39.6	62.1	37.1
38.3	46.1	66.5	42.6	60.0	62.7	45.2	51.1	38.5	49.1
45.8	57.0	52.1	66.3	54.2	46.3	53.1	48.3	49.8	27.2
45.3	52.2	50.7	64.2	56.3	52.6	51.5	51.8	50.2	25.1
45.1	57.6	68.6	41.1	51.9	56.6	46.9	41.5	56.0	34.9
44.9	45.3	76.4	45.1	51.1	56.2	45.8	45.2	45.4	44.8
44.2	48.3	75.1	43.0	54.4	55.3	46.1	43.3	48.7	41.5
43.8	46.6	65.1	54.9	63.2	53.6	53.5	43.8	43.0	32.4
44.4	49.0	74.6	42.3	53.4	56.5	45.7	43.0	50.0	41.0
48.4	64.3	59.0	37.8	53.7	43.1	37.8	48.4	64.3	43.1
54.4	77.2	49.7	45.5	45.5	45.5	45.5	45.5	45.6	45.5
61.7	66.3	51.8	41.0	58.9	53.6	44.5	39.1	45.6	37.6
56.3	52.5	25.4	58.3	46.6	46.1	47.6	57.1	50.2	59.9
74.9	58.9	42.9	51.2	44.1	42.1	46.2	47.0	47.7	44.8
34.3	51.3	51.0	57.9	41.7	39.4	46.9	68.8	56.2	52.5
30.0	49.1	68.2	-	58.6	55.4	44.3	-	44.3	-
40.7	47.6	44.8	47.9	61.5	58.1	59.5	52.8	57.8	29.5
66.7	66.9	45.9	41.0	52.8	46.2	48.9	43.9	50.9	36.7
41.5	62.3	45.4	48.6	39.5	56.6	53.7	51.4	66.1	35.0
44.0	44.1	72.1	43.0	56.1	61.5	44.7	42.7	47.5	44.3
44.6	48.4	75.9	43.8	45.3	55.3	53.7	45.3	43.8	43.8
44.6	45.8	76.0	44.3	52.6	56.0	45.7	44.4	46.9	43.6
56.5	42.6	71.0	40.0	44.7	49.0	43.2	41.9	61.0	50.2
68.5	60.6	48.8	37.0	44.9	48.8	44.9	44.9	60.6	40.9
49.8	68.4	53.5	39.2	58.9	49.5	54.4	42.3	50.5	33.5
37.6	42.8	67.0	53.9	53.0	64.5	47.1	48.2	48.5	37.5
40.8	70.6	58.2	40.8	55.3	48.4	56.2	40.8	47.9	40.8
50.9	53.0	74.0	42.1	56.9	47.1	46.4	41.1	48.6	39.9
45.7	48.9	38.9	74.1	45.8	43.1	44.1	58.5	49.2	51.7
64.5	46.3	56.5	54.3	44.0	62.7	46.0	30.4	45.6	49.7
46.2	40.1	69.7	52.5	56.2	61.8	47.4	44.5	43.2	38.5
58.6	69.0	52.9	43.2	40.7	33.6	52.2	51.4	53.9	44.5
45.2	39.1	72.3	48.9	53.9	61.0	46.5	46.2	45.7	41.2
46.5	42.0	74.8	43.1	46.5	59.3	46.2	44.2	46.2	51.2
55.7	53.2	25.7	57.6	47.6	41.0	54.5	56.5	50.4	57.7
53.9	50.5	59.4	59.0	59.0	48.7	53.6	45.2	44.5	26.2
75.6	56.8	47.7	49.3	44.3	42.6	50.4	47.2	42.5	43.7
63.6	58.8	45.9	51.1	49.4	32.4	51.9	62.5	45.7	38.6
45.1	30.0	61.1	52.3	61.0	59.2	54.4	52.2	43.0	41.7

偏差値40以下
 偏差値60以上

(参考2) 広域地方ブロック別 JADEX の算出方法

①各データの偏差値化

- 各データについて、ブロックの値を用いて、各ブロックの偏差値を算出
(データが欠損しているブロックは、偏差値算出の対象から除外)

②中項目のポイント(偏差値の平均)

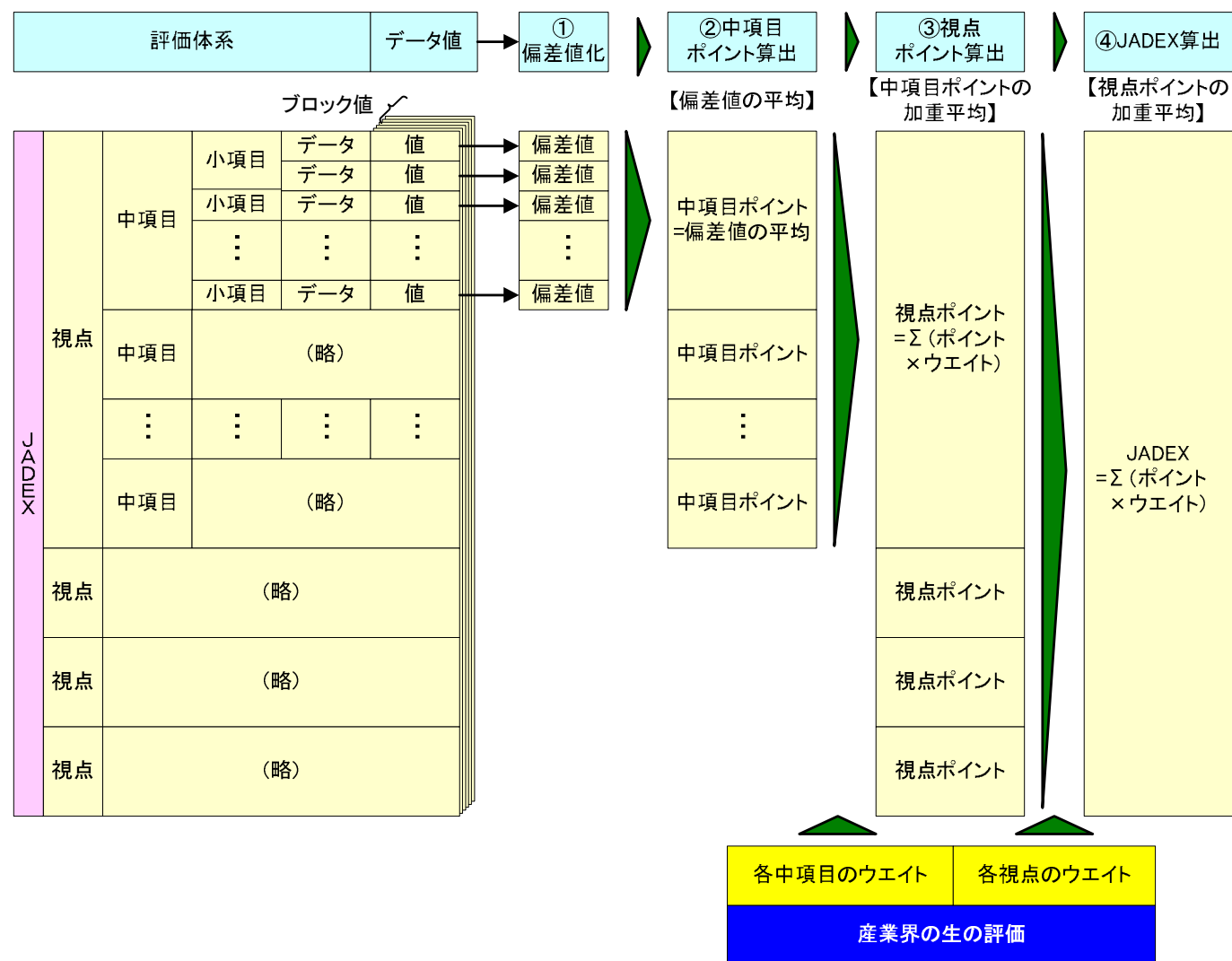
- 各中項目に属するデータの偏差値を単純平均
(欠損しているデータがある場合、当該データを除いて単純平均)

③視点のポイント(中項目ポイントの加重平均)

- 各視点に属する中項目のポイントに、当該中項目のウェイトを乗じて合計
(\sum 中項目ウェイト×ポイント)

④国際競争力指標 JADEX(視点ポイントの加重平均)

- 各視点のポイントに、当該視点のウェイトを乗じて合計 (\sum 視点ウェイト×ポイント)



(参考3) 広域地方ブロック別 JADEX 指標の拡充と精緻化

広域地方ブロック別 JADEX 指標は、2007年に作成した国別の国際競争力指標である「JAPIC 版国際競争力指標 (JADEX)」をベースに作成を試みました。

しかしながら、JADEX で採用した評価項目、データは国単位のものであり、必ずしも広域地方ブロック別に国際競争力を評価する上では適切とはいえないものもありました。そこで、2009年版においては、これらの指標の見直し、代替指標の採用等を検討しました。また、広域地方ブロックの国際競争力を評価する上での観点や重要なデータについて、国土形成計画等に精通している国土交通省の方を交えて議論を行い、指標の拡充と精緻化を図りました。

(1) 対象国に極東ロシアを追加

JADEX では、東アジア諸国をターゲットとして国際競争力を強化することを前提としています。しかし、北海道、東北圏、北陸圏では極東ロシアとの交流を深めて国際競争力を強化しようとしています。そこで、広域地方ブロック別 JADEX 指標では、ブロックの国際競争力を適切に評価できるよう東アジア諸国として極東ロシアを追加することにしました。

(2) 指標の入れ替え・修正

◆ 国単位の指標を削除・修正

広域ブロック別 JADEX 指標では、JADEX における二国間優遇措置や規格基準の共通性など国単位の評価項目、データについては、削除・修正をしました。

- 例) 二国間優遇措置 (パートナーシップ)・・・中項目全体を削除
規格基準の共通性 (パートナーシップ)・・・中項目全体を削除
ITリテラシー能力 (基礎体力)・・・広域地域ブロック間で差がないと考え削除
国際社会における信頼 (基礎体力)・・・広域地域ブロック間で差がないと考え削除
通信基盤 (基礎体力)・・・ブロードバンドの整備状況のみ指標として採用

◆ ブロックの質を評価する指標の再検討

北陸や沖縄のような規模の小さいブロックを絶対数量データで評価すると評価は低くなる傾向にあります。そこで、ブロックの規模が影響する指標は、GRPや人口数等で基準化しました。

- 例) 国際観光旅館の数 → 訪問外国人あたりで基準化

◆ 各地域の特徴を表わす指標を採用

広域地域ブロックの特徴を評価できるようデータを追加・修正しました。

- 例) 貿易結合度 → 1次産業、2次産業別に評価
魅力的な観光資源の多さ → 訪日外国人による観光地推薦率を指標に追加

◆ 貿易関係データを生産地・消費地別に推計・集計

広域地方ブロックと東アジア諸国との貿易関係を表わす以下のデータを、貿易統計に基づく税関所在地別の集計から、物流センサスを用いて税関から生産地・消費地別に推計・集計することで精緻化しました。

- 「競争優位性」の中項目「東アジアとの貿易実績」に係るデータ (輸出量、貿易収支)
- 「競争優位性」の中項目「産業に関わる技術水準」における工作機械の貿易収支
- 「パートナーシップ」の中項目「貿易の緊密度」に係るデータ (貿易結合度、海上貨物取引量)

(参考4) データ別上位3ブロック・上位5都道府県 (競争優位性・魅力)

大項目	中項目	小項目	用いる指標(案)	上位3ブロック			上位5都道府県				
				1位	2位	3位	1位	2位	3位	4位	5位
東アジア市場における競争優位性 (24.8)	東アジアとの貿易実績 (9.8)	貿易額	東アジアへの当該地域からの輸出額 (1次産業)	首都圏	中国圏	近畿圏					
			東アジアへの当該地域からの輸出額 (2次産業)	中国圏	九州圏	首都圏					
		貿易の収支	東アジアとの貿易収支 (1次産業)	沖縄	北海道	北陸圏					
			東アジアとの貿易収支 (2次産業)	九州圏	中国圏	近畿圏					
	企業活動の効率性・生産性 (13.6)	労働の生産性	労働生産性	首都圏	中部圏	近畿圏	東京	愛知	大阪	滋賀	三重
		資本の生産性	資本係数	沖縄	中部圏	北陸圏	三重	大分	福井	島根	徳島
		人件費の水準	人件費	沖縄	四国圏	北陸圏	高知	鳥取	徳島	島根	和歌山
		資金調達の容易さ	地方銀行の貸付残高	首都圏	中部圏	近畿圏	神奈川	大阪	静岡	新潟	福岡
	産業に関わる技術水準 (21.4)	産業用技術	工作機械の貿易収支	中国圏	北陸圏	中部圏					
			国際特許出願数	首都圏	近畿圏	中部圏	千葉	大阪	愛知	東京	京都
			技能オリンピック獲得メダル数(重みつき合計)	首都圏	中部圏	東北圏	東京	愛知	新潟	長野	大阪
		環境技術	エネルギー集約度(最終エネルギー消費/GRP)	沖縄	北陸圏	近畿圏	東京	京都	大阪	長野	山梨
		IT投資/活用	IT技術力(IT環境の先進性に関する評価)⇒IPアドレスの数	首都圏	近畿圏	中部圏	千葉	東京	大阪	愛知	群馬
	市場の成熟度 (14.6)	国内市場規模	地域内の一人当たり家計消費支出	首都圏	中部圏	近畿圏	群馬	千葉	愛知	新潟	大阪
	国内人材の活力 (17.0)	教育機関	地元大学への進学率	北海道	沖縄	九州圏	愛知	北海道	福岡	千葉	宮城
			労働生産人口あたりの大学卒業者の比率	首都圏	近畿圏	中国圏	東京	神奈川	奈良	千葉	兵庫
他地域からの進学者の比率			首都圏	近畿圏	北陸圏	滋賀	奈良	京都	鳥取	山口	
	起業の活発さ	起業活動を行った人材の割合	北海道	首都圏	近畿圏	沖縄	千葉	大阪	福岡	北海道	
知的財産の蓄積 (11.3)	R&D投資	研究所の数	東北圏	首都圏	九州圏	北海道	東京	青森	宮城	京都	
		博士の人数 ⇒ 博士課程卒業生	首都圏	近畿圏	中部圏	千葉	京都	大阪	愛知	福岡	
	技術輸出	技術輸出額⇒ 製造業出荷額/従業者数	中国圏	中部圏	四国圏	山口	大分	三重	埼玉	和歌山	
ブランド力 (12.3)	エクセレントカンパニー	優れた会社ランキングの上位社数	首都圏	近畿圏	中部圏	東京	大阪	愛知	京都	神奈川	
		優良企業ランキングの上位社数	首都圏	近畿圏	中部圏	東京	大阪	愛知	神奈川	兵庫	
	当該国企業のイメージ	企業ブランドランキングの上位社数	首都圏	中部圏	近畿圏						
東アジアの人・企業にとっての魅力 (21.2)	「在住」の魅力 (生活) (17.2)	医療・福祉の充実度	住民10万人当たり犯罪率	東北圏	北陸圏	北海道					
		物価の安さ	消費者物価指数(県庁所在市)	沖縄	四国圏	九州圏	宮崎	沖縄	秋田	栃木	佐賀
			家賃価格(県庁所在市)	北陸圏	四国圏	北海道	愛媛	佐賀	大分	岩手	岐阜
		教育の充実度	インターナショナルスクールの数	首都圏	近畿圏	中部圏	東京	大阪	神奈川	兵庫	愛知
	在日東アジア国籍者あたりの日本語学校数		沖縄	九州圏	北海道	東京	大阪	福岡	兵庫	千葉	
		都市の利便性の高さ	主要都市人口当たりの都市鉄軌道の延長	沖縄	四国圏	中部圏					
	「訪問」の魅力 (観光) (13.8)	魅力的な観光資源の多さ	訪日外国人による観光地推薦率	沖縄	北海道	九州圏					
			温泉の湧出量	九州圏	東北圏	中部圏	大分	北海道	鹿児島	青森	熊本
			世界遺産の数	近畿圏	中国圏	北海道					
	観光サービスの充実度	外国人観光客あたりの外国人向け案内所数(TIC)	東北圏	四国圏	中国圏	奈良	青森	秋田	香川	愛媛	
外国人観光客あたりの国際観光旅館の数		北陸圏	中国圏	近畿圏	群馬	新潟	山梨	山形	宮崎		
	東アジアからの訪問観光客数の増加率(リピート率)	北海道	東北圏	北陸圏							
「投資・提携」の魅力 (経済) (35.1)	企業の能力の高さ	ISO(9000)認証取得企業数	首都圏	近畿圏	中部圏						
東アジアからの人・企業の訪問等 の実績 (16.6)	国内に住む東アジアの人	国内在住外国人(東アジア国籍)数	首都圏	近畿圏	中部圏						
		東アジアからの留学生	首都圏	近畿圏	九州圏	東京	大阪	福岡	愛知	千葉	
		訪問観光客	首都圏	近畿圏	九州圏	東京	大阪	神奈川	京都	北海道	
「交流」の魅力 (学術・文化・芸術) (17.3)	学術のレベルの高さ	世界大学評価ランキングの上位大学数	首都圏	近畿圏	中国圏						
		東アジアからの留学・研修目的の来訪者数	首都圏	近畿圏	中部圏						

※空欄は都道府県別集計データがないことを意味する。また、太枠とマーカーを付したものは同順位であることを意味する。

(参考4) データ別上位3ブロック・上位5都道府県 (パートナーシップ・基礎体力)

大項目	中項目	小項目	用いる指標(案)	上位3ブロック			上位5都道府県													
				1位	2位	3位	1位	2位	3位	4位	5位									
東アジアにおけるパートナーシップ力 (26.5)	移動・輸送バリア (21.4)	地理的距離	首都間距離合計	沖縄	九州圏	中国圏														
		移動機会の頻度	東アジア諸国への国間月間航空旅客便数	首都圏	近畿圏	中部圏														
		輸送機会の頻度	東アジア諸国への国間月間航空貨物便数(フレーター便)	近畿圏	首都圏	中部圏														
	東アジアとの交流の緊密度 (22.1)	貿易の緊密度	一次産業の貿易結合度(輸出面)		北陸圏	東北圏	北海道													
			二次産業の貿易結合度(輸出面)		沖縄	北陸圏	近畿圏													
			一次産業の貿易結合度(輸入面)		沖縄	近畿圏	東北圏													
			二次産業の貿易結合度(輸入面)		四国圏	東北圏	北陸圏													
			東アジア諸国との海上貨物取引量(トン)		首都圏	近畿圏	中部圏	東京	神奈川	愛知	大阪	兵庫								
	東アジアとの対話機会	都市あたり東アジアとの姉妹都市提携数	首都圏	九州圏	近畿圏	北海道	大阪	東京	埼玉	福岡										
	国際協力・支援 (13.7)	国際援助	JICA派遣人員	首都圏	近畿圏	中部圏														
東アジアへの対外直接投資		JETROのセミナー開催回数	首都圏	中部圏	東北圏															
民族・文化の共通性 (11.1)	言語	語学検定の開催場所の数	首都圏	九州圏	近畿圏	北海道	東京	福岡	愛知	大阪										
東アジアにおける国際競争力を支える基礎体力	教育 (21.3)	国際コミュニケーション能力	英語検定1級+準1級合格率	首都圏	近畿圏	中部圏	神奈川	東京	秋田	大阪	鳥取									
		基礎学力	読解能力テストの平均点	北陸圏	東北圏	中部圏	秋田	福井	富山	山形	石川									
			数学的能力テストの平均点	北陸圏	中部圏	近畿圏	福井	秋田	富山	香川	愛知									
		研究基盤	研究者数	首都圏	東北圏	近畿圏	北海道	愛知	大阪	神奈川	福岡									
	技術水準	地域内特許出願数	首都圏	近畿圏	中部圏	東京	大阪	愛知	神奈川	京都										
	社会経済の規模 (12.7)	国の経済力	GRP(県内総生産/百万円)	首都圏	近畿圏	中部圏	千葉	大阪	愛知	東京	群馬									
			一人当たりGRP	首都圏	中部圏	北陸圏	東京	愛知	静岡	滋賀	大阪									
		領域	国土面積	北海道	東北圏	中部圏	北海道	岩手	福島	長野	秋田									
	人口	労働生産人口	首都圏	近畿圏	中部圏	神奈川	新潟	大阪	愛知	千葉										
	エネルギー・食糧・鉱業資源 (10.0)	天然資源	鉱業生産量(金額換算)⇒鉱山の数	東北圏	九州圏	首都圏	鹿児島	北海道	青森	埼玉	静岡									
			エネルギー生産量(石油換算重量)	東北圏	北海道	首都圏														
	水資源の量(ダム)の容量+淡水湖	東北圏	北海道	中部圏	北海道	滋賀	岐阜	三重	秋田											
	自給率	1次エネルギーの余剰量	沖縄	北陸圏	四国圏															
		食糧品の自給率(生産-消費)	北海道	東北圏	北陸圏	北海道	秋田	山形	青森	岩手										
	財政状況 (9.4)	財政状況	GRPあたりの財政収支額	四国圏	北陸圏	九州圏	徳島	山梨	島根	鳥取	大分									
			地域の信用力(格付)	首都圏	中部圏	近畿圏	東京	群馬	埼玉	千葉	神奈川	静岡	愛知							
	環境負荷 (10.5)	環境負荷	GRPあたりのCO2排出量	中部圏	中国圏	近畿圏														
			森林の占有面積	東北圏	北海道	中部圏	北海道	岩手	長野	福島	岐阜									
			自然エネルギー発電量	九州圏	東北圏	近畿圏														
	インフラ (18.3)	港湾	港湾取扱いコンテナ個数	首都圏	近畿圏	中部圏														
			大型船が寄港できるパースの数	首都圏	近畿圏	中国圏	千葉	神奈川	大阪	茨城	広島									
		空港	国際線利用者数	首都圏	近畿圏	中部圏														
			国際貨物取扱量	首都圏	九州圏	北海道														
			空港の発着容量	北海道	東北圏	九州圏														
		道路	高速道路延長	東北圏	中部圏	中国圏	北海道	新潟	福島	静岡	広島									
			1000kmあたりの鉄道駅数	首都圏	近畿圏	北陸圏	東京	大阪	神奈川	愛知	富山									
		鉄道	高速鉄道延長	東北圏	首都圏	中国圏														
			鉄道貨物量	首都圏	中部圏	東北圏	北海道	神奈川	東京	福岡	愛知									
エネルギー		GRPあたりの発電容量	北陸圏	四国圏	沖縄															
上下水道	下水処理施設の普及率	北海道	近畿圏	首都圏																
通信基盤	人口100人あたりのブロードバンド契約数	首都圏	近畿圏	中部圏																
ビジネスインフラ	対事業所サービス業の事業所数の比率	東北圏	北海道	九州圏																
	人口あたりの会計士、税理士の登録者数	首都圏	近畿圏	中部圏																
	人口あたりの弁護士の数	首都圏	近畿圏	沖縄																
社会の安定性・信頼性 (17.8)	政治的安定性	極悪犯罪件数の数	沖縄	北陸圏	四国圏															
		ジニ係数	首都圏	北陸圏	中部圏	埼玉	長野	千葉	神奈川	福井	山梨	三重	滋賀	奈良						
	生活の安定性	消費者物価指数の変化率(インフレ率)	北海道	東北圏	中国圏	北海道	青森	秋田	福島	宮崎										
		自殺率	北海道	四国圏	東北圏	奈良	岡山	徳島	神奈川	東京										
失業率	首都圏	中部圏	近畿圏	福井	富山	島根	静岡	愛知												

※空欄は都道府県別集計データがないことを意味する。また、太枠とマーカーを付したものは同順位であることを意味する。

(参考5) 国別 JADEX の概要

背景

わが国は本格的な人口減少・高齢社会を迎えつつあり、今後、経済の停滞や縮小が予測されている。その一方で、日本を取り巻く中国や ASEAN など東アジア地域は、世界の成長のエンジンとして急速な経済成長が進み、東アジアとの連携や関係の強化がより重要になってきている。

東アジア地域内で各国・地域が連携しつつ競争するという状況が生まれつつあり、欧米諸国からも注目が高まる中で、日本の国際競争力を考える際には、東アジア市場における競争だけでなく、わが国の市場において東アジアの人・企業が提供する魅力ある財・サービスを受け入れたり、東アジア各国とのさまざまな交流の舞台をわが国に呼び込むことで発展していくという方向性も志向していく必要がある。

目的と狙い

このような背景の下で、(社)日本プロジェクト産業協議会(JAPIC:会長 三村 明夫)では、「東アジアにおいて日本国がいかに各国と協調しながら競争力を強化・発展できるか」を命題として、産業界の生の声を反映した新たな国際競争力指標を開発し提案した。

この指標開発の目的と狙いは、大きく以下の2つがある。

産業界の現場感覚に合った指標の開発

これまでに提案されている IMD 等の国際競争力指標とその算出結果については、われわれ産業界の感覚からみて違和感があるとの意見もあり(2007年7月23日付け日経朝刊)、日本の強み弱みを把握し、今後の課題・方向性を検討する上で、現場のビジネスパーソンの感覚に合う新しい指標が必要であると考えた。

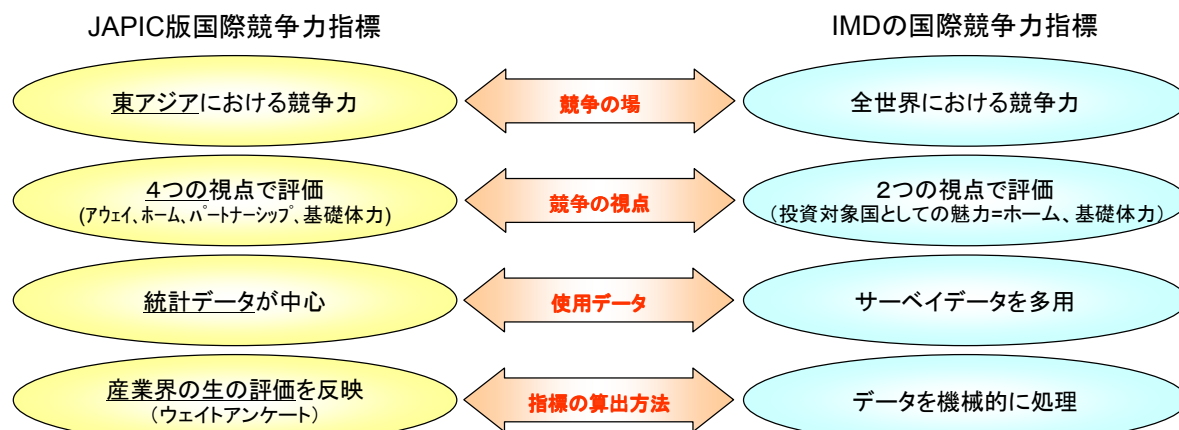
(例) IMD*の国際競争力指標(2009年):日本 17位

*スイスのビジネススクール International Institute for Management Development (国際経営開発研究所)。1989年より、毎年、国際競争力指標を World Competitiveness Yearbook にて公表。

「東アジア」をターゲットとした指標の開発

急速な経済成長を果たし、今や EU や NAFTA と並ぶ経済規模となっている「東アジア経済圏」に着目した指標を開発した。 ※ここでの東アジアとは、ASEAN+日・中・韓+香港・台湾+インドを指す。

指標の特徴(既存指標との違い)

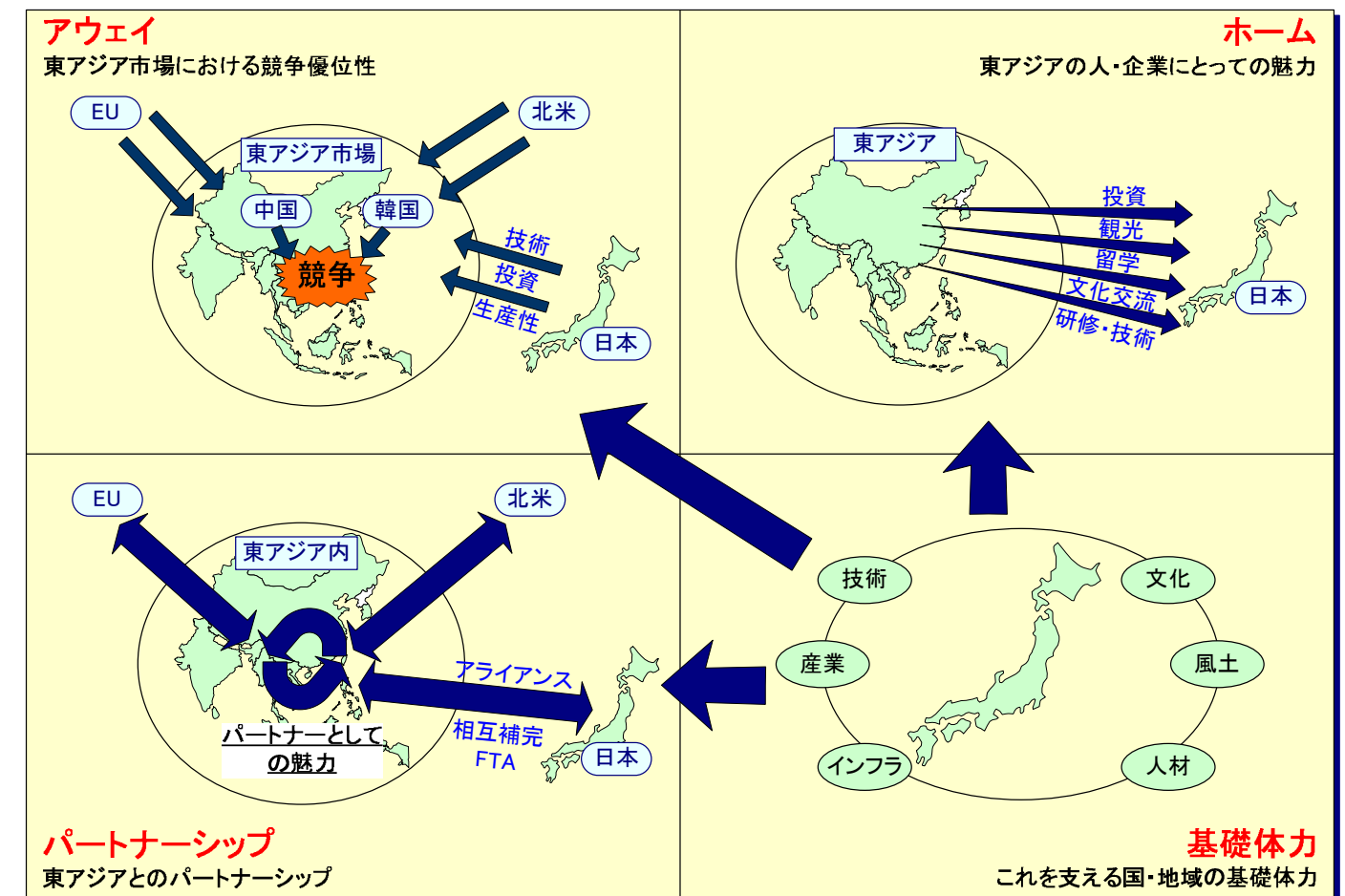


産業の市場競争の基盤だけではない多面的な“競争力”を評価

これまでに提案されている国・地域の国際競争力に関する指標は、主として市場における競争を担う各国・地域の企業に対する評価や、その活動を支える国・地域のビジネス環境や資源、政府や制度等のシステムを中心とした評価になっている。しかしながら、今後日本が構築すべき東アジアとの広範かつ多面的な関係を踏まえれば、そこでの競争力は、上記のような市場競争力とその基盤となる要素だけでなく、その国・地域の市場や観光・文化・芸術等の魅力や、パートナーとして関係を深める上での協調性も、競争の視点になるべきであろう。

そこで、従来の国際競争力指標の考え方に近い「東アジアの人・企業にとっての魅力(ホーム)」、「これを支える国・地域の基礎体力」という2つの視点に加え、「東アジア市場における競争優位性(アウェイ)」、「東アジアとのパートナーシップ」という4つを“競争の視点”として捉え、それぞれの視点に基づく評価項目として中項目、小項目に細分化し、国際競争力指標の体系を構築した。

<東アジアにおける競争：4つの視点>



日本が戦略的に重視すべき東アジアを念頭においた指標

今回開発した国際競争力指標では、小項目を適切に表現する 104 のデータを採用している。このうち、27 のデータでは、わが国の施策として東アジアとの連携や交流を深める重要性が高まることをふまえ、東アジアという場における評価や東アジアとの関係性を評価できるものとして採用している。これらのデータには、既存の統計データだけでなく、東アジア諸国との協定の締結数のように、各項目の意味合いを的確に表現し得るよう独自に集計・加工しているオリジナルデータもある。

＜4つの視点に基づく評価体系＞

視点	中項目	小項目	データ
東アジア市場における競争優位性 (アウェイ)	東アジアとの貿易実績		
	企業活動の効率性・生産性		
	産業に関わる技術水準		
	市場の成熟度		
	国内人材の活力		
	知的財産の蓄積		
	ブランド力		
東アジアの人・企業にとっての魅力 (ホーム)	「在住」の魅力 (生活)	74 項目	104 データ (うち 27 データは東アジアとの関係を表わすデータ)
	「訪問」の魅力 (観光)		
	「投資・提携」の魅力 (経済)		
	東アジアからの人・企業の訪問等の実績		
東アジアにおけるパートナーシップ力 (パートナーシップ)	「交流」の魅力 (学術・文化・芸術)		
	移動・輸送バリア		
	東アジアとの交流の緊密度		
	二国間優遇措置		
	国際協力・支援等		
	規格基準の共通性		
東アジアにおける国際競争力を支える基礎体力 (基礎体力)	民族・文化の共通性		
	教育		
	社会経済の規模		
	エネルギー・食糧・鉱業資源		
	財政状況		
	環境負荷		
インフラ			
社会の安定性・信頼性			

*これらの中項目の下に小項目を設定し、小項目を適切に表現するデータを各々に対応させている。

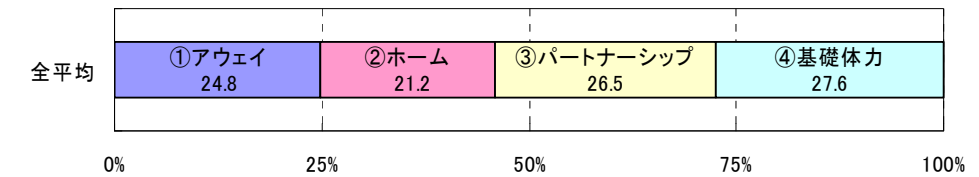
現役のビジネスパーソンへの調査に基づく“現場感覚”に合った評価

設定した4つの視点のうちでどの視点を重視すべきか、あるいは4つの視点それぞれにおいて重要な評価項目は何か、という重みづけ (ウエイト) は、産業界の生の声として東アジアの現場で活躍されているビジネスパーソンに評価していただいた。また、「東アジアからみたその国の文化的魅力」など統計データ等で把握することが困難な項目についても、現地駐在員の方にご協力いただき、アンケートによる評価を行い指標に反映している。

国際競争力指標は、これらのデータの偏差値を、次項に述べるビジネスパーソンの重みを反映させつつ集計して国・地域別の総合ランキングを算出している。

本指標は、「東アジア」という明確なターゲットを設定し、4つの視点に基づいて構築し、さらに産業界の生の評価を反映させたことから、これまでの国際競争力指標と一味異なった結果が得られている。

＜4つの視点に関する重要度はほぼ均衡＞



- ①アウェイ：東アジア市場での競争優位性
- ②ホーム：東アジアの人・企業にとっての国の魅力
- ③パートナーシップ：東アジア各国とのパートナーシップ
- ④基礎体力：国際競争力を支える基礎体力

＜アンケート調査の対象者＞

対象地域	対象	アンケートの種別	配布	回収
日本	日本企業 (東証1部・2部上場) 経営者	ウエイト	約 2,300 社	304
東アジア	現地法人等 経営者	ウエイト	約 500 社	101
	現地駐在員	サーベイ	約 400 社	95
東アジア以外	現地駐在員	サーベイ	約 200 社	35
合計			約 3,400 社	535

評価対象は、多面的な視点から東アジアにおける日本の競争相手となり得る 43 ヶ国・地域

東アジア市場における競争や連携、人や企業に対する魅力など、多面的な視点から日本の「競争相手」となり得る43の国・地域を選定し、その相対的な評価/ランキングを行っている。

＜評価対象国の43ヶ国・地域＞

地域	国・地域	国・地域数
東アジア	日本、韓国、中国、香港、台湾、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム、インド	12 ヶ国・地域
欧州(EU)	ベルギー、オランダ、ルクセンブルク、ドイツ、フランス、イタリア、イギリス、アイルランド、デンマーク、ギリシャ、スペイン、ポルトガル、オーストリア、フィンランド、スウェーデン	15 ヶ国
欧州(EFTA)	スイス、ノルウェー、アイスランド	3 ヶ国
北米	カナダ、アメリカ、メキシコ	3 ヶ国
南米	アルゼンチン、ブラジル、チリ	3 ヶ国
大洋州	オーストラリア、ニュージーランド	2 ヶ国
アフリカ	南アフリカ	1 ヶ国
中近東	サウジアラビア、UAE、イスラエル	3 ヶ国
BRICs	ロシア、(中国、ブラジル、インド:前掲)	1 ヶ国

国際競争・成長戦略研究会

平成22年3月

主査

岩田真二郎 (株)日立製作所 執行役常務
情報・通信グループサービス・グローバル部門 CEO

アドバイザー

杉田 定大 早稲田大学 先端科学・健康医療融合研究機構 客員教授
元経済産業省 貿易経済協力局 大臣官房審議官

山崎 亜也 住友商事(株) 理事 資源・化学品事業部門長付
元国際協力銀行 専任審議役

本多 均 (株)三菱総合研究所 常務執行役員社会公共部門長

国際競争・成長戦略ワーキング

幹事

梶浦 敏範 (株)日立製作所 経営戦略室 I T戦略担当本部長

メンバー

清水 敏博 (株)メタルワン 業務部 総括ユニット 参事

徳田 英司 新日本製鐵(株) プロジェクト開発部 部長代理

中村 研二 (株)日本政策投資銀行 地域企画部 主任研究員

古田 祐尚 (株)JFE スチール プロジェクト営業部主任部員

宮崎 寛 新日本製鐵(株) 海外営業部企画・調整グループ マネージャー

事務局：(社)日本プロジェクト産業協議会

森 正樹 事業企画部課長

緒方 裕司 事業企画部係長

協力：(株)三菱総合研究所

長谷川 専 人間・生活研究本部 主任研究員

内田 景子 社会システム研究本部 研究員

社団法人 日本プロジェクト産業協議会 (JAPIC)

本件に関するお問い合わせ : 担当 森・緒方 (03)3668-2885

長谷川(三菱総合研究所) (03)3277-0730

2010/3